

(様式第 10)

大市大病第 285 号  
平成 26 年 10 月 3 日

厚生労働大臣

殿

開設者名 理事長 西澤 良記 (印)

大阪市立大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第の規定に基づき、平成 26 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒558-8585 大阪市住吉区杉本3丁目3番138号
氏 名	公立大学法人 大阪市立大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

大阪市立大学医学部附属病院
---------------

3 所在の場所

〒545-8586 大阪市阿倍野区旭町1丁目5番7号	電話(06)-6645-2711
-------------------------------	------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜
---

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1)内科

内科	①	無
内科と組み合わせた診療科名等 1 呼吸器内科 2 消化器内科 3 循環器内科 4 神経内科 5 リウマチ科 6 肝臓・胆嚢・膵臓内科 7 8 9		
診療実績		

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	有・無
外科と組み合わせた診療科名 1 呼吸器外科 2 消化器外科 3 心臓血管外科 4 小児外科 5 整形外科 6 形成外科 7 8 9	
診療実績	

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科 ②小児科 ③整形外科 ④脳神経外科 ⑤皮膚科 ⑥泌尿器科 ⑦産婦人科 8産科 9婦人科 ⑩眼科 ⑪耳鼻咽喉科 ⑫放射線科 13放射線診断科 ⑭放射線治療科 ⑮麻酔科 16救急科
---

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	有・無
歯科と組み合わせた診療科名 1 2 3 4 5 6 7	
歯科の診療体制  定期的に外部の歯科医師の方が往診に来られ、診療体制を確保している。	

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1病理診断科 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21
--

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
38床	0床	0床	0床	942床	980床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成 26 年 10 月 1 日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	494人	144.9人	638.9人	看 護 補 助 者	58人	診 療 エ ッ ク ス 線 技 師	人
歯 科 医 師	人	人	人	理 学 療 法 士	10人	臨 床 検 査 技 師	81人
薬 剤 師	44人	5.8人	49.8人	作 業 療 法 士	3人	衛 生 検 査 技 師	人
保 健 師	人	人	人	視 能 訓 練 士	8人	そ の 他	人
助 産 師	35人	人	35人	義 肢 装 具 士	人	あ ん 摩 マ ッ サ ー ジ 指 圧 師	人
看 護 師	845人	74.9人	919.9人	臨 床 工 学 技 士	14人	医 療 社 会 事 業 従 事 者	10人
准 看 護 師	1人	11.3人	12.3人	栄 養 士	9人	そ の 他 の 技 術 員	8人
歯 科 衛 生 士	人	人	人	歯 科 技 工 士	人	事 務 職 員	154人
管 理 栄 養 士	9人	1人	10人	診 療 放 射 線 技 師	52人	そ の 他 の 職 員	231人

(注) 1 申請前半年以内のある月の初めの日における員数を記入すること。

2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。

3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従業者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下 2 位を切り捨て、小数点以下 1 位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成 26 年 10 月 1 日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	112人	眼 科 専 門 医	11人
外 科 専 門 医	56人	耳 鼻 咽 喉 科 専 門 医	13人
精 神 科 専 門 医	10人	放 射 線 科 専 門 医	27人
小 児 科 専 門 医	16人	脳 神 経 外 科 専 門 医	12人
皮 膚 科 専 門 医	11人	整 形 外 科 専 門 医	25人
泌 尿 器 科 専 門 医	16人	麻 酔 科 専 門 医	15人
産 婦 人 科 専 門 医	15人	救 急 科 専 門 医	5人
		合 計	344人

(注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従業者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下 1 位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯 科 等 以 外	歯 科 等	合 計
1 日 当 たり 平 均 入 院 患 者 数	784.9人	人	784.9人
1 日 当 たり 平 均 外 来 患 者 数	2071.3人	人	2071.3人
1 日 当 たり 平 均 調 剤 数		1284.6	剤
必要医師数			202人
必要歯科医師数			人
必要薬剤師数			27人
必要(准)看護師数			461人

(注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。

2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の 24 時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。

- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

## 9 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
集中治療室	480.95 m <sup>2</sup>	鉄骨造 (耐火建築物)	病床数	24床	心電計	(有)・無
			人工呼吸装置	(有)・無	心細動除去装置	(有)・無
			その他の救急蘇生装置	(有)・無	ペースメーカー	(有)・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 190.26m <sup>2</sup> [移動式の場合] 台数 台		病床数	19 床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 55.78m <sup>2</sup> [共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	562.45m <sup>2</sup>		(主な設備) 生化学自動分析装置、グルコース分析装置、グリコヘモグロビン分析装置等			
細菌検査室	154.20m <sup>2</sup>		(主な設備) 全自動MGIT抗酸菌培養装置、遺伝子リアルタイムPCR装置等			
病理検査室	317.24m <sup>2</sup>		(主な設備) 自動脱水包埋装置、自動封入機、電子顕微鏡、蛍光顕微鏡、免疫染色装置等			
病理解剖室	67.53m <sup>2</sup>		(主な設備) 解剖台、撮影装置、ホルマリン作製装置等			
研究室	71.32m <sup>2</sup>		(主な設備) 講義用モニター			
講義室	205.79m <sup>2</sup>		室数	1 室	収容定員	166 人
図書室	7.67m <sup>2</sup>		室数	1 室	蔵書数	150 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。  
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

## 10 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成25年4月1日～平成26年3月31日	
紹介率	83.8%	逆紹介率	77.3%
算出根拠	A: 紹介患者の数	24411 人	
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	23288 人	
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	836 人	
	D: 初診の患者の数	30128 人	

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。





(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	難治性膠原病に対する細胞標的治療(リツキサン注)	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 既存の治療に反応しない難治性膠原病患者に対し、点滴治療。			
医療技術名	難治性膠原病に対する免疫抑制治療(セルセプト・カプセル)	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 既存の治療に反応しない難治性膠原病患者に対し、経口投与する。			
医療技術名	難治性膠原病に対する免疫抑制治療(グリベック錠)	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 既存の治療に反応しない難治性膠原病患者に対し、経口投与する。			
医療技術名	難治性膠原病に対する免疫抑制治療(サンディミュン点滴)	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 既存の治療に反応しない難治性膠原病患者に対し、点滴治療。			
医療技術名	ヘリコバクター・ピロリ除菌療法:一次及び二次除菌療法不成功例に対する標準的三次除菌療法の確立	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 ヘリコバクター・ピロリ感染者のうち、保険適応として一次および二次除菌治療を受け、除菌不成功であった症例に対してパリエット、サワシリンカプセル、クラビットを2週間投与し除菌治療を試みる。			
医療技術名	食道表在癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)時におけるプロポフォールの使用	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 内視鏡室における食道表在癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)施行時の鎮静剤として用いる。			
医療技術名	多剤耐性B型肝炎ウイルスに対するテノフォビル投与の試み	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 現在保険適応である薬剤に耐性を示すB型肝炎ウイルス感染例を対象とし、ビリアード1錠を1日1回1年間継続服用をする。			
医療技術名	局所治療不能な肝細胞癌に対するインターフェロン投与の試み	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 外科切除や経皮的焼灼療法の適応外である肝細胞癌患者に対し、1日1回内服投与し1年間継続する。			
医療技術名	膵癌に対するパクリタキセルとゲムシタビンの併用療法	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 手術不能膵癌患者に対してパクリタキセルを125mg/m <sup>2</sup> の用量で保険承認のゲムシタビン1000mg/m <sup>2</sup> に併用して点滴静注する。3投1休4週間を1コースとし効果を認める限り投与を繰り返す。			
医療技術名	大動脈炎症候群に対するトシリズマブ治療	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 (難治性)大動脈炎患者に対し、トシリズマブを3週間隔で点滴静注する、			
医療技術名	ムコ多糖症II型患者の酵素補充療法製剤に対し高タイターの中和抗体価を示し、治療効果の減退を示した症例に対する免疫グロブリン大量投与	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 抗体産生を抑制し、酵素補充療法の効果を発揮させる目的で、免疫グロブリン製剤の大量静脈内投与を行う。投与方法は、500mg/kg/週を4回連続投与を行う。			
医療技術名	神経型ゴーシェ病を対象としたアンブロキシソール(ムコソルバン)を用いたシャペロン療法の有効性と安全性に関するオープンラベル試験	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 アンブロキシソールは去痰剤としての用量の3倍量(成人1日135mg、小児1日2.7mg/kg)で投与を開始する。副作用、酵素活性の変動を見ながら3ヶ月毎に通常量の6倍(1日270mg)、9倍(405mg)、12倍(540mg)までの増量を行う。			

医療技術名	小児のミトコンドリア病における遺伝子スクリーニング検査	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 保険適応が認められていないミトコンドリア病(MELASとMARRF)における遺伝子点変異のスクリーニング検査			
医療技術名	難治性ネフローゼに対するリツキサン投与	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 入院中の患者に本薬剤を1回点滴静注する。最初の1時間は25mg/hの速度で点滴静注を開始し、患者の状態を十分観察しながら、その後注入速度を100mg/hにあげて1時間点滴静注し、更にその後は200mg/hまで速度をあげる。			
医療技術名	皮膚悪性腫瘍におけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 悪性黒色腫を含む皮膚悪性腫瘍に対して、手術前日あるいは手術当日午前中に、RI室で病巣周囲を4分割した部位にTc製剤1mCiを皮下注射する。RI室にてガンマカメラで撮影し集積を認めた部位にマーキングを行う。 手術室においては、ガンマプローブを用いて集積部分を同定。パテントブルーバイオレット2.5%1mlを併用して、センチネルリンパ節の摘出を行う。			
医療技術名	胸部悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	取扱患者数	17人
当該医療技術の概要 高齢による低肺機能や過去の開胸術による癒着などで、外科的切除が困難な肺癌症例を対象とする。病変径3cm以下は根治を、それ以上では体積減少を目指す。 局所麻酔後、CTガイド下で電極針を経皮的に刺入し、標的病変に命中したことをCTで確認し、ラジオ波の通電を開始する。焼灼が完了した時点で電極針を抜去し、手技を終了する。CTで観察を行いながら実施することにより、局所のみを正確に治療することが可能で1結節の治療時間は1～2時間程度となり入院期間は7～10日である。			
医療技術名	腎悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 腎機能温存や他疾患合併等で、外科的切除術が困難な悪性の腎腫瘍症例を対象とする。病変径は3cm以下は根治を、それ以上では体積減少を目指す。 局所麻酔後、CTガイド下で電極針を経皮的に刺入し、標的病変に命中したことをCTで確認し、ラジオ波の通電を開始する。焼灼が完了した時点で電極針を抜去し、手技を終了する。CTで観察を行いながら実施することにより、局所のみを正確に治療することが可能で1結節の治療時間は1～2時間程度となり入院期間は7～10日である。			
医療技術名	骨腫瘍のCT透視ガイド下経皮的ラジオ波焼灼療法	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 既存の治療方による制御が困難な悪性の骨腫瘍、または類骨骨腫瘍症例を対象とし、体積減少や疼痛軽減による症状の緩和を目指す治療法である。 局所麻酔後、CTガイド下で経皮的(必要に応じて手術室で全身麻酔下にナビゲーションシステムによる直視下)に電極を刺入し標的病変に命中したことをCT(またはナビゲーション)で確認し、ラジオ波の通電を開始する。焼灼が完了した時点で電極針は抜去し手技は終了する。CTガイド(またはナビゲーションシステム)で観察を行いながら実施することにより、局所のみを正確に治療することが可能で1結節の治療時間は1～2時間程度である。			
医療技術名	圧迫骨折に対する経皮的椎体形成術	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 悪性腫瘍の転移や骨粗鬆症による脊椎の圧迫骨折のため疼痛が強度で、日常生活に支障をきたしている症例を対象に疼痛緩和によるQOLの改善を目的に施行する。 局所麻酔後、CTやX線透視でモニターしながら経皮的に骨生検針を骨折した脊椎椎体に刺入する、次いで少量(1-10ml程度)の骨セメントを注入し、適度な広がりになったことを画像で確認後、針を抜去して手技を終了する。 治療に要する時間は1時間程度である。また、入院期間はおよそ1週間である。			
医療技術名	軟部悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 侵襲の大きい外科的切除術を避けることが望まれ、かつ本療法による病変の縮小や疼痛の緩和が期待できる、転移等の軟部性悪性腫瘍を対象とする、患者選択に際しては、当該外科と協議して決定する。 局所麻酔後、CTガイド下で電極針を経皮的に刺入し、標的病変に命中したことをCTで確認し、ラジオ波の通電を開始する。焼灼が完了した時点で電極針を抜去し、手技を終了する。CTで観察を行いながら実施することにより、局所のみを正確に治療することが可能で1結節の治療時間は1～2時間程度となり入院期間は7～10日である。			
医療技術名	気管支充填術(Endobronchial Watanabe Spigotによる)	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 難治性気胸・肺癰・有癭性膿胸患者に対して、 気管支鏡を用いてシリコン充填材EWSを気管支に詰めて気管支を閉塞し、その末梢からの気漏を止めて種々の病態を改善する内視鏡的治療法。			

医療技術名	ステントグラフト内挿術(オープン型ステントグラフト内挿術、経皮的ステントグラフト内挿術)	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 胸部大動脈瘤・解離性大動脈瘤患者に対して行う。 オープン型ステントグラフト内挿術は、脳分離体外循環下に弓部大動脈よりステントグラフトを遠位弓部～下行大動脈に内挿する。経皮的ステントグラフト内挿術は、経大腿動脈から逆行性に胸大動脈瘤内にステントグラフトを内挿する方法である。			
医療技術名	経皮経肝門脈枝塞栓術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 葉切除以上の肝切除が必要な肝癌、胆道癌患者に対し、 血管造影室において、局所麻酔下超音波ガイド下に肝内門脈枝を穿刺し、門脈本幹内にカテーテルを挿入して直接門造影を行う。切除予定領域に流入する門脈枝を確認した後、同門脈枝内にバルーンカテーテルを挿入し、ファイブリン糊を注入して同門脈を塞栓する。塞栓当日はベッド上安静とするが翌日から歩行や食事は再開する。この塞栓術から約2週間後、腹部CTなどにより充分な切除予定領域(塞栓領域)の萎縮と残存予定領域(非塞栓領域)の再生肥大が惹起されていることを確認した後、予定された肝切除を行う。			
医療技術名	頭蓋内頸動脈および椎骨動脈病変に対するステントを用いた血管形成術	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 頭蓋内頸動脈及び椎骨動脈の狭窄病変で外科的治療が困難と考えられる例に対して、バルーンカテーテルを用いた経皮的血管形成術にステント留置を併用する。			
医療技術名	経皮的内視鏡下椎間板摘出術(PED/PELD)	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 腰椎椎間板ヘルニア患者に対し局所麻酔もしくは静脈麻酔下に腹臥位となり、皮膚に8mmの穴を開け、そこから内視鏡と専用の手術器具を挿入してヘルニアを切除する。			
医療技術名	末梢神経絞扼性障害の除圧範囲決定における術中神経栄養血管造影および電気生理学的検査の応用	取扱患者数	33人
当該医療技術の概要 末梢神経障害で手術を受ける患者を対象に、術中、造影剤を使用し神経の血管造影を行い、電気生理学的検査で神経に対する除圧の効果を確認する。			
医療技術名	術中血管造影を用いた皮弁内血行動態の研究	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 皮弁手術を受ける患者を対象に、術中、造影剤を使用し、皮弁内の血行動態を確認し、安全な皮弁作成を行う。			
医療技術名	手根管症候群に対する低侵襲手術の開発	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 手根管症候群で手術を受ける患者を対象に、入院または外来手術で使用する。			
医療技術名	細胞培養依託システムを使用した関節鏡下自己骨髄間葉系幹細胞移植による関節軟骨欠損修復	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 膝軟骨欠損に対して、自己骨髄間葉系幹細胞移植が可能な症例 腸骨より骨髄液を採取し、骨髄間葉系細胞を培養する。必要細胞数まで増やしたら、細胞浮遊液としてヒアルロン酸を加えて、関節鏡を使用し関節内に移植する。			
医療技術名	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 腹腔鏡下に膀胱・前立腺・尿道および所属リンパ節を摘出し、臓器摘出後は腹腔鏡で使用したポート切開部位を最小限延長して、ミニマム創手術にて回腸を利用した代用膀胱を造設するものである。			
医療技術名	腎移植領域におけるリツキシマブの応用	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 1) 既存抗体陽性腎移植症例            3) 抗体関連拒絶反応発症症例 2) ABO血液型不適合腎移植抗血液型抗体高値症例 1) 2) の場合、移植前に0.1～0.5g/kgを点滴静注射 5日間投与 3) 液性拒絶反応と診断し、ステロイド大量投与、血漿交換にても改善しない症例に対して0.5g/kgを5日間投与する			
医療技術名	腎移植領域における5回以上のplasmapheresis	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 1) ABO血液型不適合腎移植における脾摘回避希望症例 2) ABO血液型不適合腎移植抗血液型抗体高値症例 3) 既存抗体陽性腎移植症例 4) 抗体関連拒絶反応発症症例 腎移植領域において脱感作目的でのplasmapheresisは術前4回保険適応で認められている。しかしながら既存抗体陽性症例、ABO不適合腎移植血液型抗体価高値症では4回のplasmapheresisでは手術可能な状態とならないことがある。そのため、手術可能な状態となるまで更にplasmapheresisが4～6回必要となることがある。			

医療技術名	腎移植領域における免疫グロブリン大量投与療法の応用	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要			
1) 既存抗体陽性腎移植症例            3) 抗体関連拒絶反応発症症例 2) ABO血液型不適合腎移植抗血液型抗体高値症例 1) 2) の場合、移植前に0.1～0.5g/kgを点滴静注射 5日間投与 3) 液性拒絶反応と診断し、ステロイド大量投与、血漿交換にても改善しない症例に対して0.5g/kgを5日間投与する			
医療技術名	胎児輸血	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要			
経腹超音波ガイド下に臍帯静脈を穿刺し胎児血で貧血を確認した後、輸血を実施する。胎児の血液型は不明であるためO型Rh(-)の濃厚赤血球を状況にあわせて使用する。			
医療技術名	アバスチン硝子体内注射	取扱患者数	134人
当該医療技術の概要			
加齢黄斑変性、近視性黄斑変性、糖尿病網膜症、網膜静脈閉塞症、ぶどう膜炎、新生血管黄斑症、網膜血管拡張症、網膜血管腫、網膜血管炎、新生血管緑内障の諸症状について 手術室にて眼瞼および結膜嚢を消毒後、顕微鏡下にてアバスチン0.05mlを30G針にて、硝子体内に注射する。アバスチン点滴静注用(4ml)を0.2ml毎に分注して使用する。アバスチン点滴静注用4mlから約20本、硝子体内用の注射液を作成することができる。			
医療技術名	組織プラスミノゲンアクチベータ(t-PA) 網膜下注射	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要			
加齢黄斑変性、近視性黄斑変性、新生血管黄斑症、網膜細動脈瘤 手術室にて硝子体手術時に網膜下へt-PAを注入し、網膜下出血を洗浄する。			
医療技術名	浅在性皮膚悪性腫瘍に対するALAを用いた光線力学療法	取扱患者数	17人
当該医療技術の概要			
日光角化症、ボーエン病、乳房外Paget病、浅在性基底細胞癌患者に対し、ALA含有軟膏を患部に密閉療法4時間後、患部にレーザー照射する。1ヶ月の間隔で治療を繰り返し、3回で1クールとする。			
医療技術名	経皮的硬膜外神経形成術	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要			
神経ブロック等、種々の保存的治療に抵抗を示す椎間板ヘルニア、脊柱管狭窄症、腰椎手術後の腰下肢痛患者に対し、入院にて行う。			
医療技術名	同種血幹細胞移植後の急性GVHDの初期治療としてのミコフェノール酸モフェチルの有効性の検索	取扱患者数	21人
当該医療技術の概要			
造血器疾患に対して、同種造血幹細胞移植を受け、grade II以上の急性GVHDを発症した患者。 組織学的あるいは臨床症状よりgrade II以上の急性GVHDが発症したと診断された後、セルセプト1.5g/日(体重40キロ以上60キロ未満の患者)あるいは2.0g/日(体重60kg以上80kg未満の患者)の内服を開始する。 一日投与量を12時間ごとに内服する。			
医療技術名	治療抵抗性特発性血小板減少性紫斑病(治療抵抗性ITP)に対するリツキシマブ治療	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要			
抗血小板抗体が存在する治療抵抗性の血小板減少症患者に対し、入院にて点滴投与する。			
医療技術名	肝中心静脈閉塞症(VOD)/静脈閉塞性肝疾患(SOS)に対するトロンボモジュリンの有効性と安全性の検討	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要			
治療抵抗性の肝中心静脈閉塞症(VOD)/静脈閉塞性肝疾患(SOS)に対してリコモジュリンを点滴投与			
医療技術名	治療抵抗性慢性GVHDに対するリツキシマブ治療	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要			
治療適応となる中等症以上で、ステロイドによる初期治療抵抗性の慢性GVHDに対してリツキサンを点滴投与する。			
医療技術名	本邦におけるHLA不一致骨髄バンクドナーからの同種造血幹細胞移植におけるBortezomibを用いたGVHD予防法の安全性の検討	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要			
GVHDのハイリスクとなるHLA不一致骨髄バンクドナーからの同種造血幹細胞移植に際して、タクロリムス+メトトレキサートの標準的GVHD予防療法に加えて、Bortezomibを移植後計3回点滴投与する。			
医療技術名	造血幹細胞移植後の移植後リンパ増殖性疾患(PTLD)に対するリツキシマブ治療	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要			
造血幹細胞移植後に末梢血EBウイルスDNA定量検査にてEBウイルスの増加を認めるか、もしくは組織にてPTLDの診断を満たす症例に対して、リツキサンを点滴投与する。			

医療技術名	顆粒球輸注ドナーに対する顆粒球採取	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 より多くの顆粒球(好中球)を採取するため、採取前にドナーに顆粒球コロニー刺激因子G-CSF(ノイトロジン注)を皮下注射し、ステロイド(デキサメタゾン)を内服してもらう。また、顆粒球をより効率よく採取するためサリンヘスを点滴し、採取する。採取時には血液が固まらないようにクエン酸を使用するが、その際の副作用を防ぐためにカルチコール注を点滴する。 (現在わが国においては、同種末梢血幹細胞移植の健康保険適用は健常な「血縁ドナー」にG-CSFを投与して末梢血幹細胞を採取する場合に限られている。一方、顆粒球採取を目的として健常人にG-CSFを投与することは、現時点では健康保険適用とされていない。)			
医療技術名	同種造血幹細胞移植後の治療抵抗性Idiopathic pneumonia syndrome (IPS)に対するエタネルセプト治療	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 同種造血幹細胞移植後の重篤なIPSに対し、ステロイド全身投与で改善しない場合に点滴投与する。			
医療技術名	治療抵抗性血栓性血小板減少性紫斑病に対するリツキシマブ治療	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 血漿交換や血漿輸血などの治療に抵抗性の血栓性血小板減少性紫斑病に対して点滴投与する。			
医療技術名	再発難治性血管免疫芽球形T細胞リンパ腫に対するシクロスポリン療法	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 ネオーラル3～5mg/kgを1日2回に分けて内服する。6～8週間後より1～3週ごとに50mgずつ減量する。適宜血中濃度を測定し、トランプ値を参考に増減する。また、内服困難時は適宜点滴(サンディミュン)への変更も考慮する。			
医療技術名	HLA半合致移植における移植後シクロフォスファミドによるGVHD予防療法	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 GVHDのハイリスクとなるHLA半合致ドナーからの同種造血幹細胞移植に際して、タクロリムス+MMFの標準的GVHD予防療法に加えて、シクロフォスファミドを移植後点滴投与する。			
医療技術名	ブドウ糖PETによる認知症診断	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要 肘静脈よりFDGスキャン注を静脈投与し、その後PETカメラにて頭部撮影。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	101人	・膿疱性乾癬	10人
・多発性硬化症	44人	・広範脊柱管狭窄症	13人
・重症筋無力症	44人	・原発性胆汁性肝硬変	93人
・全身性エリテマトーデス	255人	・重症急性膵炎	11人
・スモン	1人	・特発性大腿骨頭壊死症	82人
・再生不良性貧血	58人	・混合性結合組織病	30人
・サルコイドーシス	75人	・原発性免疫不全症候群	5人
・筋萎縮性側索硬化症	16人	・特発性間質性肺炎	10人
・強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎	133人	・網膜色素変性症	16人
・特発性血小板減少性紫斑病	80人	・プリオン病	0人
・結節性動脈周囲炎	31人	・肺動脈性肺高血圧症	2人
・潰瘍性大腸炎	678人	・神経線維腫症	39人
・大動脈炎症候群	22人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ビュルガー病	21人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	4人
・天疱瘡	33人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	1人
・脊髄小脳変性症	42人	・ライソゾーム病	32人
・クローン病	377人	・副腎白質ジストロフィー	1人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	2人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	1人
・悪性関節リウマチ	14人	・脊髄性筋萎縮症	3人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	144人	・球脊髄性筋萎縮症	1人
・アミロイドーシス	1人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	6人
・後縦靭帯骨化症	94人	・肥大型心筋症	0人
・ハンチントン病	0人	・拘束型心筋症	0人
・モヤモヤ病(ウイリス動脈輪閉塞症)	23人	・ミトコンドリア病	1人
・ウェゲナー肉芽腫症	8人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	0人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	54人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	17人	・黄色靭帯骨化症	6人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	8人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、AD H分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	94人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・特定機能病院入院基本料	・新生児特定集中治療室退院調整加算
・臨床研修病院入院診療加算	・救急搬送患者地域連携紹介加算
・超急性期脳卒中加算	・救急搬送患者地域連携受入加算
・妊産婦緊急搬送入院加算	・病棟薬剤業務実施加算
・診療録管理体制加算2	・データ提出加算
・急性期看護補助体制加算	・救命救急入院料1
・看護補助加算	・救命救急入院料4
・療養環境加算	・特定集中治療室管理料3
・重症者等療養環境特別加算	・特定集中治療室管理料4
・無菌治療室管理加算1	・ハイケアユニット入院医療管理料2
・無菌治療室管理加算2	・総合周産期特定集中治療室管理料
・緩和ケア診療加算	・小児入院医療管理料2
・精神科身体合併症管理加算	・
・摂食障害入院医療管理加算	・
・がん診療連携拠点病院加算	・
・医療安全対策加算1	・
・感染防止対策加算1	・
・患者サポート体制充実加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・
・退院調整加算	・

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・植込型除細動器移行期加算	・悪性黒色腫センチネルリンパ節加算
・糖尿病合併症管理料	・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)
・がん性疼痛緩和指導管理料	・腫瘍脊椎骨全摘術
・がん患者指導管理料1	・頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る。)
・がん患者指導管理料2	・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術
・がん患者指導管理料3	・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・外来緩和ケア管理料	・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・網膜再建術
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・糖尿病透析予防指導管理料	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)
・外来リハビリテーション診療料	・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)
・外来放射線照射診療料	・乳がんセンチネルリンパ節加算1
・ニコチン依存症管理料	・乳がんセンチネルリンパ節加算2
・がん治療連携計画策定料	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・がん治療連携管理料	・経皮的冠動脈形成術
・認知症専門診断管理料	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・肝炎インターフェロン治療計画料	・経皮的冠動脈ステント留置術
・薬剤管理指導料	・経皮的中隔心筋焼灼術
・医療機器安全管理料1	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・医療機器安全管理料2	・植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術
・持続血糖測定器加算	・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
・造血器腫瘍遺伝子検査	・植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術(レーザーシースを用いるもの)
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
・検体検査管理加算(I)	・大動脈バルーンポンピング法(IABP法)
・検体検査管理加算(IV)	・補助人工心臓
・遺伝カウンセリング加算	・経皮的大動脈遮断術
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・ダメージコントロール手術

・植込型心電図検査	・腹腔鏡下肝切除術
・時間内歩行試験	・生体部分肝移植術
・胎児心エコー法	・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術
・ヘッドアップティルト試験	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・人工膵臓	・腹腔鏡下小切開副腎摘出術
・皮下連続式グルコース測定	・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
・長期継続頭蓋内脳波検査	・腹腔鏡下小切開腎部分切除術
・脳磁図	・腹腔鏡下小切開腎摘出術
・神経学的検査	・腹腔鏡下小切開腎(尿管)悪性腫瘍手術
・補聴器適合検査	・同種死体腎移植術
・小児食物アレルギー負荷検査	・生体腎移植術
・内服・点滴誘発試験	・膀胱水圧拡張術
・センチネルリンパ節生検(併用)	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・センチネルリンパ節生検(単独)	・腹腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍手術
・画像診断管理加算1	・人工尿道括約筋植込・置換術
・ポジトロン断層撮影	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	・腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術
・CT撮影及びMRI撮影	・内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術
・冠動脈CT撮影加算	・医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6(歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。)に掲げる手術
・心臓MRI撮影加算	・輸血管理料 I
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・貯血式自己血輸血管理体制加算
・外来化学療法加算1	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・無菌製剤処理料	・内視鏡手術用支援機器加算
・心大血管疾患リハビリテーション料(I)	・麻酔管理料(I)
・脳血管疾患等リハビリテーション料(I)	・麻酔管理料(II)
・運動器リハビリテーション料(I)	・放射線治療専任加算
・呼吸器リハビリテーション料(I)	・外来放射線治療加算
・がん患者リハビリテーション料	・高エネルギー放射線治療
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	・強度変調放射線治療(IMRT)
・医療保護入院等診療料	・直線加速器による放射線治療(定位放射線治療)
・エタノールの局所注入(副甲状腺)	・保険医療機関間の連携による病理診断
・透析液水質確保加算2	・病理診断管理加算2
・一酸化窒素吸入療法	



## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
ヒトIPS心筋細胞を用いたHDF療法の治療効果の検討	長沼 俊秀	泌尿器科	500,000	補 公益財団法人大阪腎臓バンク
膀胱癌に対するSteroid Sulfataseの作用機序の解明	玉田 聡	泌尿器科	1,560,000	補 基盤研究(C)
造血幹細胞移植治療の合併症克服と有効率向上に関する研究	日野雅之	血液内科・造血細胞移植科	1,100,000	補 基盤研究(C)
同種末梢血幹細胞移植を非血縁者間で行う場合等の医学、医療、社会的基盤に関する研究	日野雅之(分担研究者)	血液内科・造血細胞移植科	300,000	補 厚労科研 免疫アレルギー疾患等予防・治療研究事業
造血幹細胞移植の有効性と安全性向上のための薬剤のエビデンスの確立に関する研究	中前博久(分担研究者)	血液内科・造血細胞移植科	500,000	補 厚労科研 がん臨床研究事業
造血細胞移植における肝中心静脈閉塞症(VOD)に対する本邦承認薬 defibrotideの国内導入のための研究:第I相および第II相試験(医師主導治験)	中前博久(分担研究者)	血液内科・造血細胞移植科	500,000	補 厚労科研 医療技術実用化総合研究事業
難治性白血病に対する同種造血幹細胞移植後の再発と感染症発症抑制に関する研究	康 秀男	血液内科・造血細胞移植科	910,000	補 若手研究(B)
インターネット依存障害の病態および治療に関する研究	片上素久	神経精神医学	1,560,000	補 若手研究(B)
脳神経外科手術用止血剤の開発に向けた組織接着性	大畑 建治	脳神経外科	3,083,320	補 独立行政法人日本学術振興会
低磁場MRIと脳磁図の同時測定による頭蓋内疾患の病態解明に関する基礎研究	露口尚弘	脳神経外科	1,926,420	補 独立行政法人日本学術振興会
門脈血行異常に関する調査研究	塩見 進	核医学科	400,000	補 厚生労働省特定疾患対策研究
アミロイドメーキングを用いたアルツハイマー病の発症・進展予測法の実用化に関する研究	塩見 進	核医学科	1,000,000	補 厚生労働省特定疾患対策研究
肝細胞癌のマイクロRNA解析による発症メカニズムの解明と臨床応用	久保正二	肝胆膵外科	847,722	補 基盤研究(C)
肝移植後のレシピエントの妊娠・出産における心理的体験と医療支援に関する研究	久保正二	肝胆膵外科	50,000	補 基盤研究(C)
印刷労働者にみられる胆管癌発症の疫学的解明と原因追究	久保正二	肝胆膵外科	500,000	補 厚生労働科学研究費
環境暴露による胆管癌発症時の胆汁プロファイルとレドックス解析による早期診断への応用	竹村茂一	肝胆膵外科	700,000	補 挑戦的萌芽研究
手術を受け通院中の消化器系がん患者のリハビリテーション看護モデルの開発	大杉治司	肝胆膵外科(食道)	100,000	補 厚生労働科学研究費
敗血症における臓器傷害保護をめざした一酸化炭素供与体のより安全な投与法の確立	水口真二郎	呼吸器外科	365,493	補 若手研究(B)
GGT阻害剤ナールスゲン及びナールスゲン含有製品による頭皮・毛髪への効果のエビデンス検証による実用化検討	鶴田 大輔	皮膚科	4,000,000	補 大阪市イノベーション創出支援補助金
特発性発汗異常症・色素異常症の病態解析と新規治療薬開発に向けた戦略的研究	深井 和吉	皮膚科	2,000,000	補 厚生労働科学研究費補助金
カンナビノイド受容体がラミニン-511の発現に与える影響を利用した新規の脱毛治療薬の開発	菅原 弘二	皮膚科	1,000,000	補 公益社団法人日本皮膚科学会基礎医学研究費
肥満細胞腫に対する内因性カンナビノイドを用いた新規治療薬開発	菅原 弘二	皮膚科	1,000,000	補 公益社団法人大阪難病研究財団

小計22

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
角層カタラーゼ活性系に対する補剤の作用メカニズムの解明	小林 裕美	皮膚科	5,150,000	補	基盤研究(C)
水疱性類天疱瘡発症初期メカニズムの解明	鶴田 大輔	皮膚科	2,470,000	補	基盤研究(C)
難治性脱毛に対するカンナビノイド受容体を介した新規の治療薬の開発	菅原 弘二	皮膚科	1,690,000	補	基盤研究(C)
表皮角化細胞におけるβ4インテグリンのエンドサイトーシスの解明	小澤 俊幸	皮膚科	1,690,000	補	若手研究(B)
角層をターゲットとした皮膚アンチエイジング剤としての漢方薬の作用解明	田宮 久詩	皮膚科	650,000	補	若手研究(B)
白皮症の治療ーナンセンス変異リードスルー効果の基礎研究	深井 和吉	皮膚科	1,300,000	補	挑戦的萌芽研究
スキルス胃がん細胞株の浸潤・播種を制御する分子/薬剤の検索	八代 正和	腫瘍外科	1,800,000	委	国立がん研究センターがん研究開発費
スキルス胃癌に対する分子標的治療薬の新規開発	八代 正和	腫瘍外科	2,000,000	補	大阪市立大学戦略的研究
HER2陽性乳がんに対する術前抗HER2抗体療法における効果予測マーカーの探索的研究	高島 勉	腫瘍外科	500,000	委	国立がん研究センターがん研究開発費
進行・再発大腸癌ならびに隣癌に対する新規エドトープペプチドカクテル療法と標準化学療法の併用効果を検討する多施設共同第Ⅰ/Ⅱ相臨床試験	田中 浩明	腫瘍外科	1,200,000	補	厚生労働科学研究費補助金
癌周囲微小免疫環境に及ぼす抗炎症薬の効果と消化器癌に対するワクチン療法への応用	田中 浩明	腫瘍外科	800,000	補	公益財団法人大阪コミュニティ財団木原隆がん基金
トリプルネガティブ乳癌におけるE-cadherin発現の臨床的意義および分子機構の解明	柏木伸一郎	腫瘍外科	1,000,000	補	公益財団法人大阪コミュニティ財団
スキルス胃癌の病態と治療抵抗性の克服ー癌幹細胞を標的としてー	平川 弘聖	腫瘍外科	3,380,000	補	基盤研究(B)
甲状腺未分化癌と上皮間葉転換の関連に関する研究	小野田 尚佳	腫瘍外科	2,600,000	補	基盤研究(C)
災害時におけるコミュニケーションツールの開発	山村 仁	救急医学	1,430,000	補	科学研究費助成事業
救急電話相談事業による救急業務の効率化に関する研究	溝端 康光	救急医学	17,516,000	委	総務庁消防庁
学校における心停止の疫学調査	西内辰也	救急医学	1,950,000	補	科学研究費助成事業
胃癌の発癌・進展におけるプロスタグランジントランスポーターの発現動態とその意義	谷川 徹也	消化器内科	3,000,000	補	日本消化器病学会
難治性疾患克服研究事業 特発性大腿骨頭壊死症の診断・治療・予防法の開発を目的とした全国学際的研究	中村博亮(分担金)	整形外科	1,350,000	補	厚生労働科学研究費補助金
再生医療実用化研究事業 関節鏡視下自己骨髄間葉系幹細胞移植による関節軟骨欠損修復-多施設共同、非盲検、ランダム化、平行比較試験	橋本祐介(分担金)	整形外科	4,000,000	補	厚生労働科学研究費補助金
末梢絞扼性障害における術中神経栄養血管造影を用いた神経内除圧範囲の研究	岡田 充弘	整形外科	780,000	補	基盤研究(C)
BMPシグナル伝達系へのカテコラミンの促進効果(運動による骨形成促進メカニズム)	鈴木 亨暢	整形外科	1,560,000	補	基盤研究(C)
関節炎に及ぼす脂質サイトカインの影響	小池 達也	整形外科	1,040,000	補	基盤研究(C)

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
パラバイオスラットを利用した半月板損傷修復過程解明と組織修復への応用	箕田 行秀	整形外科	1,690,000	補	基盤研究(C)
FGF drug/iPS cellデリバリーシステム併用による末梢神経再生の促進	中村 博亮	整形外科	1,820,000	補	基盤研究(C)
iPS細胞移植による末梢神経再生の促進メカニズムと安全性(マウス/イヌモデル)	上村 卓也	整形外科	1,560,000	補	基盤研究(C)
黄色靭帯肥厚の進行予防による新しい腰部脊柱管狭窄症治療法の開発	堂園 将	整形外科	1,560,000	補	基盤研究(C)
転移性骨腫瘍に対する内固定の腫瘍抑制効果の検討	寺井 秀富	整形外科	2,600,000	補	基盤研究(C)
骨形成蛋白(BMP)と局所注入療法を併用した新しい低侵襲脊椎固定術の開発	松本 富哉	整形外科	1,430,000	補	研究活動スタート支援
活性型ビタミンD3による関節軟骨変性予防効果とそのメカニズムの解明	大田 陽一	整形外科	2,080,000	補	若手研究(B)
慢性疲労症候群の病因病態の解明と画期的診断・治療法の開発	稲葉 雅章	代謝内分泌病態内科学	500,000	補	厚生労働省
虚血下肢の治療を目的としたInjectable cell scaffoldの前臨床試験	福本 真也	代謝内分泌病態内科学	6,758,000	補	科学技術振興機構
インドキシル硫酸による血管石灰化抑制糖蛋白質fetuin-A発現に対する影響	森 克仁	代謝内分泌病態内科学	500,000	補	日本腎臓財団
インスリン非使用2型糖尿病患者におけるカーボカウント食事指導法の有効性の検討	福本 真也	代謝内分泌病態内科学	910,000	補	基盤研究(C)
糖尿病性腎症の新規バイオマーカー開発を目指した、単離糸球体のプロテオーム解析	石村 栄治	代謝内分泌病態内科学	1,170,000	補	基盤研究(C)
2次性副甲状腺機能亢進症における副甲状腺メカニズムの病態生理学的役割の研究	今西 康雄	代謝内分泌病態内科学	1,300,000	補	基盤研究(C)
ビタミンDシグナルによる副甲状腺腫瘍化抑制機構の検討	稲葉 雅章	代謝内分泌病態内科学	1,560,000	補	基盤研究(C)
尿毒症物質をターゲットとした透析患者の心血管疾患発症の抑制を目指す包括的研究	森 克仁	代謝内分泌病態内科学	1,560,000	補	基盤研究(C)
分子イメージング研究戦略推進プログラム「分子イメージングによるタウ凝集阻害薬開発」	三木隆己	老年内科・神経内科	3,846,154	委	国立大学法人京都大学 文部科学省
高齢認知症患者における高齢者タウオパチーの臨床的分離同定に関する研究	嶋田 裕之	老年内科・神経内科	1,040,000	補	基盤研究(C)
星細胞サイトグロビンは慢性肝障害からの発がん過程に関与するか？	河田 則文	肝胆膵病態内科学	9,620,000	補	日本学術振興会
肝細胞内微量B型肝炎ウイルスの病的意義に関する研究	田守昭博	肝胆膵病態内科学	1,430,000	補	日本学術振興会
血中マイクロRNAを用いた肝線維化バイオマーカーの開発に関する研究	榎本 大	肝胆膵病態内科学	1,690,000	補	日本学術振興会
B型肝炎ウイルス構造解析による薬剤応答性の評価と新規治療薬開発に関する研究	村上 善基	肝胆膵病態内科学	41,600,000	委	厚生労働省
脂肪肝炎における肝脂肪化のメカニズムの解明	藤井 英樹	肝胆膵病態内科学	1,560,000	補	基盤研究(C)
喫煙による血管障害におけるニコチン依存度とトロンボスポンジンの関与と機序	竹本 恭彦	総合医学教育学	1,100,000	補	基盤研究(C)

小計23

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
遺伝子多型情報に基づくワルファリンの適正投与量設定へ向けた前向き臨床試験	竹本 恭彦	総合医学教育学	1,000,000	補	基盤研究(B)
手術患者の酸化ストレス病態の解明と抗酸化治療による手術侵襲治療戦略の確立	土屋正彦	麻酔科	715,000	補	基盤研究(C)
抗うつ薬、抗痙攣薬による神経障害性疼痛の予防—インビボパッチクランプ法による検討	森隆	麻酔科	1,820,000	補	基盤研究(C)
局所麻酔薬の心毒性に対するリビッドレスキューの機序解明	松浦 正	麻酔科	1,040,000	補	若手研究(B)
ラットにおける脳内セロトニン濃度と異常行動の検討—セロトニン症候群予防への試み	高橋陵太	麻酔科	1,300,000	補	若手研究(B)
神経障害性疼痛モデルラットにおける下降性抑制系賦活機構の検討	西川精宣	麻酔科	2,990,000	補	基盤研究(C)
不育症におけるアネキシンの役割	松本真紀子	女性診療科 (産科・生殖内分泌・骨盤底医学)	989,392	補	若手研究(B)
高磁場MR装置を用いた、拡散強調画像による自己免疫性脱髄疾患患者の脳温度解析研究	三木 幸雄	放射線医学	1,950,000	補	基盤研究(C)
高磁場MRIを用いた位相差強調画像法による脳腫瘍内微細構造の分離画像化	坂本 真一	放射線医学	2,210,000	補	基盤研究(C)
肺腫瘍に対するラジオ波凝固療法と化学療法併用の基礎的研究	大隈 智尚	放射線医学	2,990,000	補	基盤研究(C)
Graves病に対する甲状腺動脈塞栓術～第4の治療への検討～	山本 晃	放射線医学	1,950,000	補	基盤研究(C)
脳定位放射線照射における神経損傷の拡散テンソル画像による解析	細野 雅子	放射線医学	3,510,000	補	基盤研究(C)
気道上皮細胞特異的転写因子制御による気管支喘息治療の研究	浅井 一久	呼吸器内科学	1,950,000	補	若手研究(B)
冠動脈MRI・MRAによる不安定プラークの診断、及び薬剤の冠動脈血管径への影響	江原 省一	循環器病態内科学	650,000	補	基盤研究(C)
心肺連関を基盤とする慢性閉塞性肺疾患の包括的治療戦略の確立	金澤 博	循環器病態内科学	1,690,000	補	基盤研究(C)
心臓リハビリテーション療法へのマイオカインおよび心血管機能による多面的アプローチ	葭山 稔	循環器病態内科学	1,820,000	補	基盤研究(C)
大動脈プラークへのマルチブルバイオマーカーおよび心血管画像診断法によるアプローチ	杉岡 憲一	循環器病態内科学	1,430,000	補	基盤研究(C)
アンチエイジング分子Klothoに着目した慢性胃炎および胃がんの病態解明	谷川 徹也	消化器内科学	1,040,000	補	基盤研究(C)
ヘリコバクター・ピロリと気管支喘息の関連における免疫学的機序の関与	荒川 哲男	消化器内科学	1,170,000	補	基盤研究(C)
特殊光内視鏡と分子イメージング内視鏡による潰瘍性大腸炎合併癌サーベイランスの検討	渡辺 憲治	消化器内科学	390,000	補	基盤研究(C)
消化器疾患関連睡眠障害におけるサロゲートマーカーの探索	藤原 靖弘	消化器内科学	1,300,000	補	基盤研究(C)
成長過程におけるストレス応答と腸管グリア細胞による内臓知覚過敏とその包括的解析	富永 和作	消化器内科学	1,560,000	補	基盤研究(C)
胃内細菌叢をターゲットとした胃癌の予防・早期発見法の開発	渡邊 俊雄	消化器内科学	1,820,000	補	基盤研究(C)

小計23

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
浸潤性膵管癌の早期診断のためのプロテオーム解析を用いたバイオマーカー検索	桑江 優子	診断病理学	1,300,000	補	基盤研究(C)
ライソゾーム病神経変性におけるオートファジー機能の解明と誘導・阻害による治療研究	田中 あけみ	発達小児医学	1,170,000	補	基盤研究(C)
マイクロベクトルを用いたメンケス病のキレート剤による治療効果に関する研究	新宅 治夫	発達小児医学	1,820,000	補	基盤研究(C)
iPS細胞を用いた小児神経伝達物質病モデルの創出	濱崎 考史	発達小児医学	1,950,000	補	基盤研究(C)
ヒトiPS細胞を用いたムコ多糖症におけるワクチンの免疫誘導効果の解析	徳原 大介	発達小児医学	2,470,000	補	基盤研究(C)

小計5  
合計96

(注)1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

### 2 論文発表等の実績

#### (1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	内田 潤次	泌尿器科	Glucose intolerance is associated with increased intimal-medial thickness of the carotid artery and increased pulse-wave velocity in renal transplant recipients.	Transplantation proceedings 45(4)1535-1539 (2013年5月)
2	内田 潤次	泌尿器科	Insulin resistance and insulin secretion in renal transplant recipients with hepatitis C	Transplantation proceedings 45(4)1540-1543 (2013年5月)
3	長沼 俊秀	泌尿器科	Cerebral white matter hyperintensity predicts cardiovascular events in haemodialysis patients.	Nephrology (Carlton) 18(10)676-681 (2013年10月)
4	川嶋 秀紀	泌尿器科	Galectin 9 and PINCH, novel immunotherapy targets of renal cell carcinoma: a rationale to find potential tumor antigens and the resulting cytotoxic T lymphocytes induced by the derived peptides.	BJU International 113(2)320-322 (2014年1月)
5	内田 潤次	泌尿器科	Conversion of stable ABO-incompatible kidney transplant recipients from mycophenolate mofetil with standard exposure calcineurin inhibitors (CNIs) to everolimus with very low exposure CNIs—a short-term pilot study.	Clinical Transplantation 28(1)80-87 (2014年1月)
6	康 秀男	血液内科・造血細胞移植科	Empirical voriconazole therapy for febrile neutropenic patients with hematological disorders: a prospective multicenter trial in Japan.	Journal of infection and chemotherapy 2013 Dec;19(6):1126-34 (2013年12月)
7	宮脇大	神経精神科	Anxiety in Children with High-Functioning Pervasive Developmental Disorder	Osaka City Med J. 2013 Jun;59(1):23-34. (2013年6月)
8	後藤剛夫	脳神経外科	Simple and safe exposure of the sigmoid sinus with presigmoid approaches	Neurosurgery Rev 36(3)477-82 (2013年6月)
9	山縣 徹	脳神経外科	Primary Intramedullary Langerhans Cell Histiocytosis of the Thoracic Spinal Cord -Case Report-	Neurol Med Chir(Tokyo) 53(4)245-8 (2013年)
10	高見俊宏	脳神経外科	Intraoperative assessment of spinal vascular flow in the surgery of spinal intramedullary tumors using indocyanine green videoangiography	Surgical Neurology International (2013年10月)
11	高見俊宏	脳神経外科	Posterolateral Sulcus Approach for Spinal Intramedullary Tumor of Lateral Location: Technical Note	Neurologia medico-chirurgica 53(12)920-7 (2013年10月)
12	山縣 徹	脳神経外科	C2 Nerve Root Resection to Achieve Safe and Wide Exposure of Lateral Atlantoaxial Joints in Posterior C1-2 Instrumented Fixation:Technical Note	Neurologia medico-chirurgica 53(12)914-9 (2013年)
13	森迫拓貴	脳神経外科	Preoperative evaluation of the petrosal vein with contrast-enhanced PRESTO imaging in petroclival meningiomas to establish surgical strategy.	Neurologia medico-chirurgica 53(7)490-5 (2013年)
14	濱本晋一	放射線科	Radiofrequency ablation and immunostimulant OK-432: combination therapy enhances systemic antitumor immunity for treatment of VX2 lung tumors in rabbits.	Radiology. 267(2)405-413 (2013年5月)
15	平田一人	呼吸器内科	Epistatic effects of multiple receptor genes on pathophysiology of asthma - its limits and potential for clinical application.	Medical Science Monitor20:64-71 (2014年1月)
16	河邊讓治	核医学科	Subcutaneous extravasation of Sr-89: usefulness of bremsstrahlung imaging in confirming Sr-89 extravasation and in the decision making for the choice of treatment strategies for local radiation injuries caused by Sr-89 extravasation	Asia Oceania J Nucl Med Biol 1:56-59 (2013年10月)
17	元村尚嗣	形成外科	Dynamic eye socket reconstruction after extended total maxillectomy using temporalis transfer.	J Plast Reconstr Aesthet Surg. 2014 ;67(3):e78-80.(2013年9月)
18	竹村茂一	肝胆膵外科	S-Allyl cysteine improves nonalcoholic fatty liver disease in type 2 diabetes Otsuka Long-Evans Tokushima Fatty rats via regulation of hepatic lipogenesis and glucose metabolism.	Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition 53(2)94-101 (2013年9月)
19	細野光治	心臓血管外科	Risk factors for late valve-related mortality after aortic valve replacement in elderly patients.	Annals of thoracic and cardiovascular surgery: 19(5) P368-374 (2013年10月)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
20	佐々木康之	心臓血管外科	Adding coronary artery bypass grafting to aortic valve replacement increases operative mortality for elderly (70 years and older) patients with aortic stenosis.	General Thoracic and Cardiovascular Surgery:61 (11) P626-631(2013年11月)
21	六車一哉	腫瘍外科	Long-term survival of advanced small cell carcinoma of the esophagus after resection: A case report	Anticancer Research 33: 595-600, 2013
22	小野田尚佳	腫瘍外科	Focused approach to ectopic mediastinal parathyroid surgery assisted by radio-guided navigation	Surgery Today 44: 533-539, 2014
23	柏木伸一郎	腫瘍外科	C-Kit expression as a prognostic molecular marker in patients with basal-like breast cancer	British Journal of Surgery 100: 490-496, 2013
24	久保尚士	腫瘍外科	SPan-1 is a useful prognostic marker for patients with stage IV gastric cancer who underwent palliative gastrectomy: A retrospective multivariate study	World Journal of Surgery 37:1681-1687, 2013
25	川尻成美	腫瘍外科	Interstitial pneumonia associated with neoadjuvant chemotherapy in breast cancer	Molecular and Clinical Oncology 1: 433-436, 2013
26	大谷 博	腫瘍外科	A meta-analysis of the short- and long-term results of randomized controlled trials that compared laparoscopy-assisted and open colectomy for colon cancer	Journal of Cancer 3: 49-57, 2012
27	澁谷雅常	腫瘍外科	Low Expression of Claudin-1 and Presence of Poorly-differentiated Tumor Clusters Correlate with Poor Prognosis in Colorectal Cancer	Anticancer Research 33: 3301-3306, 2013
28	小野田尚佳	腫瘍外科	High efficacy of chemoradiation therapy sensitized by weekly docetaxel for anaplastic thyroid cancer	Anticancer Research 33: 3445-3448, 2013
29	柏木伸一郎	腫瘍外科	Adjunctive imprint cytology of core needle biopsy specimens improved diagnostic accuracy for breast cancer	Springerplus 2: 372, 2013
30	柏木伸一郎	腫瘍外科	Laparoscopic adrenalectomy in a patient with situs inversus	Journal of the Society of Laparoendoscopic Surgeons 17: 487-490, 2013
31	大谷 博	腫瘍外科	Meta-analysis of laparoscopic and open surgery for gastric gastrointestinal stromal tumor	Anticancer Research 33 : 5031-5041, 2013
32	八代正和	腫瘍外科	A c-Met inhibitor increases the chemosensitivity of cancer stem cells to the irinotecan in gastric carcinoma	British Journal of Cancer 109: 2619-2628, 2013
33	久保尚士	腫瘍外科	Thoracoscopic esophagectomy in the prone position versus in the lateral position for patients with esophageal cancer : A comparison of short-term surgical results	Surgical laparoscopy, endoscopy & percutaneous techniques 24: 158-163, 2014
34	前田 清	腫瘍外科	Prognostic value of preoperative inflammation-based prognostic scores in patients with stage IV colorectal cancer who undergo palliative resection of asymptomatic primary tumors	Anticancer Research 33: 5567-5573, 2013
35	前田 清	腫瘍外科	Low nutritional prognostic index correlates with poor survival in patients with stage IV colorectal cancer following palliative resection of the primary tumor	World Journal of Surgery 38: 1217-1222, 2014
36	櫻井克宣	腫瘍外科	Port site metastasis after laparoscopic-assisted distal gastrectomy (LADG)	International Surgery 98: 363-366, 2013
37	山村 仁	救急医学	Head Computed Tomographic measurement as an early predictor of outcome in hypoxic-ischemic brain damage patients treated with hypothermia therapy.	Scand J of Trauma, Resuscitation and Emergency Med. 21: 37, 2013
38	山村 仁	救急医学	Chest Computed Tomography performed on admission helps predict the severity of smoke inhalation injury	Crit Care 17: R95, 2013
39	星 学	整形外科	A case of dedifferentiated liposarcoma showing a biphasic pattern on 2-deoxy-2-(18)-fluoro-d-glucose positron emission tomography/computed tomography.	Rare Tumors. 5(2) 95-97 (2013年6月)
40	箕田 行秀	整形外科	Porous tantalum tibial component prevents periprosthetic loss of bone mineral density after total knee arthroplasty for five years-a matched cohort study.	J Arthroplasty. 28(10) 1760-1764 (2013年12月)
41	堂園 将	整形外科	Radiographic evaluation of postoperative bone regrowth after microscopic bilateral decompression via a unilateral approach for degenerative lumbar spondylolisthesis.	J Neurosurg Spine. 18(5) 472-478 (2013年5月)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
42	箕田 行秀	整形外科	Theoretical risk of anterior femoral cortex notching in total knee arthroplasty using a navigation system.	J Arthroplasty. 28(9) 1533-1537 (2013年10月)
43	上村 卓也	整形外科	Radial artery perforator adiposal flap for coverage of the scarred median nerve.	J Plast Reconstr Aesthet Surg. 66(7) 1019-1021 (2013年7月)
44	岡田 充弘	整形外科	Solitary neurolymphomatosis of the brachial plexus mimicking benign nerve sheath tumour: case report.	Br J Neurosurg. 27(3) 386-387 (2013年6月)
45	岡田 充弘	整形外科	A propeller flap based on the thoracoacromial artery for reconstruction of a skin defect in the cervical region: a case report.	J Plast Reconstr Aesthet Surg. 66(5) 720-722 (2013年5月)
46	上村 卓也	整形外科	Entrapment of Digital Nerves due to an Embedded Ring: A Case Report.	J Reconstr Microsurg. Epub ahead of print (2014年2月)
47	箕田 行秀	整形外科	Mobile-bearing prosthesis and intraoperative gap balancing are not predictors of superior knee flexion: a prospective randomized study.	Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc. Epub ahead of print (2014年1月)
48	渡邊 俊雄	消化器内科	Risk factors for severe nonsteroidal anti-inflammatory drug-induced small intestinal damage.	Dig Liver Dis. 2013 May;45(5):390-5.
49	谷川 徹也	消化器内科	Rebamipide inhibits indomethacin-induced small intestinal injury: Possible involvement of intestinal microbiota modulation by upregulation of $\alpha$ -defensin 5.	Eur J Pharmacol. 2013 Mar 15;704(1-3):64-9
50	渡邊 俊雄	消化器内科	Anti-tumour necrosis factor agents reduce non-steroidal anti-inflammatory drug-induced small bowel injury in rheumatoid arthritis patients.	Gut. 2014 Mar;63(3):409-14.
51	藤原 靖弘	消化器内科	Sleep Disturbances and Refractory Gastroesophageal Reflux Disease Symptoms in Patients Receiving Once-Daily Proton Pump Inhibitors and Efficacy of Twice-Daily Rabeprazole Treatment.	Digestion. 2013 Sep 5;88(3):145-152
52	藤原 靖弘	消化器内科	Eosinophilic esophagitis-like endoscopic findings in patients with erosive esophagitis	Esophagus 2013;10:199-204
53	永見 康明	消化器内科	Clinical efficacy of endoscopic submucosal dissection for adenocarcinoma of the esophagogastric junction	Endoscopy International Open. 2014;
54	富永 和作	消化器内科	A randomized, placebo-controlled, double-blind clinical trial of rikkunshito for patients with non-erosive reflux disease refractory to proton-pump inhibitor: the G-PRIDE study.	J Gastroenterol. 2014 Feb 18. [Epub ahead of print]
55	永見 康明	消化器内科	Usefulness of non-magnifying narrow band imaging in screening of early esophageal squamous cell carcinoma: A prospective comparative study using propensity score matching	Am J Gastroenterol in press
56	富永 和作	消化器内科	Kampo medicines for gastrointestinal tract disorders: a review of basic science and clinical evidence and their future application	J Gastroenterol in press
57	藤原 靖弘	消化器内科	Gastroesophageal reflux disease and sleep.	Gastroenterol Clin North Am. 42(1):57-70. Elsevier
58	十河 光栄	消化器内科	Precise endoscopic and pathologic features in a crohn's disease case with two fistula-associated small bowel adenocarcinomas complicated by an anal canal adenocarcinoma.	Intern Med. 2013;52(4):445-9.
59	山上 博一	消化器内科	Small bowel endoscopy in inflammatory bowel disease.	Clin Endosc. 2013 Jul;46(4):321-6.
60	稲葉雅章	内分泌・骨・リウマチ内科	Enhanced expression of hemoglobin scavenger receptor and heme oxygenase-1 is associated with aortic valve stenosis in patients undergoing hemodialysis.	Hemodial Int. 2014 Feb 24. [Epub ahead of print] (2014年2月)
61	稲葉雅章	内分泌・骨・リウマチ内科	Increased active PTH(1-84) fraction as a predictor of poor mortality in male hemodialysis patients.	Osteoporos Int. 2013 Nov;24(11):2863-70. (2013年11月)
62	庄司哲雄	生活習慣病・糖尿病センター	Serum n-3 and n-6 polyunsaturated fatty acid profile as an independent predictor of cardiovascular events in hemodialysis patients.	Am J Kidney Dis. 2013 Sep;62(3):568-76. (2013年9月)
63	高野さくらこ	耳鼻咽喉科	Blockage pattern of longitudinal flow in Meniere's disease	Acta Oto laryngol 2013; 133:692-698

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
64	元村尚嗣	耳鼻咽喉科	Psyco-oncological aspect of surgery in palliative care: our-satisfactory experience using a V-Y island flap	Acta Oto laryngol 2013;13 3:334-336.
65	井上晃	耳鼻咽喉科	RBM10 regulates alternative splicing	FEBS Letters 2014; 588 : 942-947
66	角南貴司子	耳鼻咽喉科	Neural mechanism of phonemic restoration for speech comprehension revealed by magnetoencephalography	Brain Res2013;9.17
67	井口広義	耳鼻咽喉科	Clinical analysis of 21 cases of cervical tuberculous lymphadenitis without active pulmonary lesion	Acta Oto laryngo2013/9/30
68	井口広義	耳鼻咽喉科	Evaluation of usefulness of fine-needle aspiration cytology in the diagnosis of tumours of the accessory parotid gland: A preliminary analysis of a case series in Japan	Acta Oto laryngo2014/2/27
69	新宅治夫	小児科	Long-term follow-up of tetrahydrobiopterin therapy in patients with tetrahydrobiopterin deficiency in Japan.	Brain Dev. 2013 May;35(5):406-10.
70	坂崎尚徳	小児科	Clinical features of adult patients with Eisenmenger's syndrome in Japan and Korea.	Int J Cardiol. 2013 Jul 15;167(1):205-9.
71	李 進剛	小児科	Predictors of neurological outcome in cooled neonates.	Pediatr Int. 2013 Apr;55(2):169-76.
72	徳原 大介	小児科	Rice-based oral antibody fragment prophylaxis and therapy against rotavirus infection.	Journal of Clinical Investigation 2013年9月3日 ;123号
73	芳田裕作	眼科	Two-year results of reduced-fluence photodynamic therapy combined with intravitreal ranibizumab for typical age-related macular degeneration and polypoidal choroidal vasculopathy	Japanese Journal of Ophthalmology 57巻3号283-293頁(2013年3月)
74	土屋正彦	麻酔科	Key points for intraoperative management of percutaneous endoscopic lumbar discectomy (PELD) for anesthesiologists.	Minerva Anesthesiologica 79(11): 1318-1319, 2013
75	舟井優介	麻酔科	Systemic $\alpha 2$ agonist administration facilitates inhibitory synaptic transmission in the rat spinal dorsal horn mediated through $\alpha 1$ adrenoceptors	PAIN RESEARCH 28(3): 145-153, 2013
76	舟井優介	麻酔科	Systemic dexmedetomidine augments inhibitory synaptic transmission in the superficial dorsal horn through activation of descending noradrenergic control: an in vivo patch-clamp analysis of analgesic mechanisms.	PAIN 155(3): 617-628, 2014
77	萩原淳司	肝胆膵病態内科学	A phase 1 study of sorafenib combined with transcatheter arterial infusion of cisplatin for advanced hepatocellular carcinoma	Cancer Science (2014年3月) 105巻354-358ページ
78	榎本大	肝胆膵病態内科学	Interferon- $\alpha / \beta$ for treatment of chronic hepatitis C infection in the era of direct-acting antiviral agents.	Hepatology Research (2013年12月) 10巻1111ページ
79	元山宏行	肝胆膵病態内科学	Cytoglobin is expressed in hepatic stellate cells, but not in myofibroblasts, in normal and fibrotic human liver.	Laboratory Investigation (2013年12月) 94巻192-207ページ
80	榎本大	肝胆膵病態内科学	Adjuvant epoetin- $\beta$ with peginterferon- $\alpha$ and ribavirin in Japanese ribavirin-intolerant relapsed patients with chronic hepatitis C genotype 2. 4	Hepatology Research (2013年10月) 10巻1111ページ
81	田守昭博	肝胆膵病態内科学	HLA class II associated with outcomes of hepatitis B and C infections	WORLD JOURNAL OF GASTROENTEROLOGY (2013年9月) 19巻5395-5401ページ
82	萩原淳司	肝胆膵病態内科学	A Complete Response Induced by 21-day Sorafenib Therapy in a Patient with Advanced Hepatocellular Carcinoma.	Internal Medicine (2013年7月) 14巻1589-1592ページ
83	榎本大	肝胆膵病態内科学	Treatment guidelines for HCV genotype 1: mono for low, triple for high, and dual for 'middle'?	Journal of Gastroenterology (2013年4月) 48巻555-556ページ
84	鶴田 大輔	皮膚科	Bullous pemphigoid with prominent milium formation	Acta Dermatovenerologica Croatica 21(1):35-38 (2013. )
85	楠谷 尚	皮膚科	Urticaria due to patent blue V which appeared along the lymph flow	Journal of Dermatology 40(6): 497-498(2013年6月)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
86	菅原 弘二	皮膚科	Cannabinoid receptor 1 controls human mucosal-type mast cell degranulation and maturation in situ	Journal of Allergy and Clinical Immunology 132(1):182-193(2013年7月)
87	鶴田 大輔	皮膚科	Clinical and immunologic characterization in 26 Indian pemphigus patients	Journal of Cutaneous Medicine and Surgery 17(5):321-331(2013年10月)
88	田宮 久詩	皮膚科	Neutrophilic myositis associated with pyoderma gangrenosum in a break-dancer	Our Dermatology Online 4(4): 484-486(2013年10月)
89	鶴田 大輔	皮膚科	Molecular diagnosis of autoimmune blistering diseases	Methods in Molecular Biology 961:17-32(2013年)

- (注)1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院に属する論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含まれるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。
- 5 平成二十六年度中の業務報告において当該実績が七十件未満の場合には、平成二十六年度の改正前の基準による実績についても報告すること。

## (2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者名	所属	題名	雑誌名
1	葭山 稔	循環器内科	Enhanced expression of hemoglobin scavenger receptor and heme oxygenase-1 is associated with aortic valve stenosis in patients undergoing hemodialysis.	Hemodial Int. 2014 Feb 24.
2	葭山 稔	循環器内科	Diagnostic accuracy of transthoracic and transesophageal echocardiography for the diagnosis of bicuspid aortic valve: comparison with operative findings.	Osaka City Med J. 2013 Dec;59(2):69-78.
3	葭山 稔	循環器内科	Relationship between oxidative stress and aortic valve stenosis in humans: an immunohistochemical study.	Osaka City Med J. 2013 Dec;59(2):61-7.
4	葭山 稔	循環器内科	Lipid synthesis is promoted by hypoxic adipocyte-derived exosomes in 3T3-L1 cells.	Biochem Biophys Res Commun. 2014 Mar 7;445(2):327-33.
5	葭山 稔	循環器内科	Myeloperoxidase and progression of aortic valve stenosis in patients undergoing hemodialysis.	J Heart Valve Dis. 2013 Sep;22(5):640-7.
6	葭山 稔	循環器内科	Giant mycotic coronary aneurysm associated with late stent infection.	Eur Heart J Cardiovasc Imaging. 2013 Dec 26.
7	葭山 稔	循環器内科	Gender-specific correlation between plasma myeloperoxidase levels and serum high-density lipoprotein-associated paraoxonase-1 levels in patients with stable and unstable coronary artery disease.	Atherosclerosis. 2013 Dec;231(2):308-14.
8	葭山 稔	循環器内科	Prognosis of vulnerable plaque on computed tomographic coronary angiography with normal myocardial perfusion image.	Eur Heart J Cardiovasc Imaging. 2013 Nov 7.
9	葭山 稔	循環器内科	The strain pattern, and not Sokolow-Lyon electrocardiographic voltage criteria, is independently associated with anatomic left ventricular hypertrophy.	Heart Vessels. 2013 Sep 19.
10	葭山 稔	循環器内科	Insulin resistance is associated with coronary plaque vulnerability: insight from optical coherence tomography analysis.	Eur Heart J Cardiovasc Imaging. 2013 Sep 9.
11	葭山 稔	循環器内科	Serum n-3 to n-6 polyunsaturated fatty acids ratio correlates with coronary plaque vulnerability: an optical coherence tomography study.	Heart Vessels. 2013 Sep 5.
12	葭山 稔	循環器内科	Tolvaptan attenuates left ventricular fibrosis after acute myocardial infarction in rats.	J Pharmacol Sci. 2013 Sep 20;123(1):58-66.
13	葭山 稔	循環器内科	Diagnostic accuracy and cost-effectiveness of a pocket-sized transthoracic echocardiographic imaging device.	Clin Cardiol. 2013 Oct;36(10):603-10.
14	葭山 稔	循環器内科	Association between hemoglobin scavenger receptor and heme oxygenase-1-related anti-inflammatory mediators in human coronary stable and unstable plaques.	Hum Pathol. 2013 Oct;44(10):2256-65.
15	葭山 稔	循環器内科	Prognostic value of coronary flow reserve on long-term cardiovascular outcomes in patients with chronic kidney disease.	Am J Cardiol. 2013 Oct 1;112(7):928-32.
16	葭山 稔	循環器内科	A case of a lesion containing an intracoronary thrombus detected as hyperintense plaque on T1-weighted cardiovascular magnetic resonance in a patient with silent myocardial ischemia.	J Cardiovasc Magn Reson. 2013 Jun 13;15:50.
17	葭山 稔	循環器内科	Rapid and accurate assessment of aortic arch atherosclerosis using simultaneous multi-plane imaging by transesophageal echocardiography.	Ultrasound Med Biol. 2013 Aug;39(8):1337-42.
18	葭山 稔	循環器内科	Very rapid effect of pitavastatin on microvascular function in comparison to rosuvastatin: reactive hyperemia peripheral arterial tonometric study.	Drug Des Devel Ther. 2013 May 3;7:369-74.
19	葭山 稔	循環器内科	Thrombus aspiration therapy and coronary thrombus components in patients with acute ST-elevation myocardial infarction.	J Atheroscler Thromb. 2013;20(6):524-37.
20	葭山 稔	循環器内科	Positive association between plasma levels of oxidized low-density lipoprotein and myeloperoxidase after hemodialysis in patients with diabetic end-stage renal disease.	Hemodial Int. 2013 Oct;17(4):557-67.
21	葭山 稔	循環器内科	A novel and simple method using pocket-sized echocardiography to screen for aortic stenosis.	J Am Soc Echocardiogr. 2013 Jun;26(6):589-96.
22	葭山 稔	循環器内科	Simultaneous assessment of endothelial function and morphology in the brachial artery using a new semiautomatic ultrasound system.	Hypertens Res. 2013 Aug;36(8):691-7.
23	葭山 稔	循環器内科	Impact of concomitant coronary artery disease on atherosclerotic plaques in the aortic arch in patients with severe aortic stenosis.	Clin Cardiol. 2013 Jun;36(6):352-7.
24	葭山 稔	循環器内科	Relationship of thrombus characteristics to the incidence of angiographically visible distal embolization in patients with ST-segment elevation myocardial infarction treated with thrombus aspiration.	JACC Cardiovasc Interv. 2013 Apr;6(4):377-85.
25	葭山 稔	循環器内科	Changes in serum cholesterol levels determine future risk of cardiovascular events in patients with acute coronary syndrome in the Japanese Coronary Artery Disease (JCAD) Study.	J Cardiol. 2013 Jun;61(6):387-92.
26	葭山 稔	循環器内科	Napkin-ring sign on coronary CT angiography for the prediction of acute coronary syndrome.	JACC Cardiovasc Imaging. 2013 Apr;6(4):448-57.

番号	発表者名	所属	題名	雑誌名
27	葭山 稔	循環器内科	Culprit lesion remodelling and long-term prognosis in patients with acute coronary syndrome: an intravascular ultrasound study.	Eur Heart J Cardiovasc Imaging. 2013 Aug;14(8):758-64.
28	葭山 稔	循環器内科	Impact of lesion length on functional significance in intermediate coronary lesions.	Clin Cardiol. 2013 Mar;36(3):172-7.
29	西本光孝	血液内科・造血細胞移植科	Risk factors affecting cardiac left-ventricular hypertrophy and systolic and diastolic function in the chronic phase of allogeneic hematopoietic cell transplantation.	Bone Marrow Transplantation 2013 Apr;48(4):581-6 (2013年4月)
30	中根孝彦	血液内科・造血細胞移植科	Prognostic factors and outcomes of unrelated bone marrow transplantation for Philadelphia chromosome positive acute lymphoblastic leukemia (Ph+ALL) pre-treated with tyrosine kinase inhibitors	Osaka City Medical Journal 2013 Jun;59(1):9-21 (2013年6月)
31	西本光孝	血液内科・造血細胞移植科	Successful treatment of both acute leukemia and active Crohn's disease after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation using reduced-intensity conditioning with fludarabine and busulfan: a case report.	Transplantation proceedings. 2013 Sep;45(7):2854-7 (2013年7月)
32	中嶋康博	血液内科・造血細胞移植科	Refractoriness to platelet transfusion in acute myeloid leukemia correlated with the optical density of anti-platelet factor 4/heparin antibodies	International Journal of Hematology 2013 Oct;98(4):472-7. (2013年10月)
33	井上幸紀	神経精神科	うつ病健診の波紋-職域でのうつ病の対応をめぐって-	精神科 22(3): 285-291, 2013. (2013年6月)
34	井上幸紀	神経精神科	うつ病	産業安全保健ハンドブック 774-777 (2013年7月)
35	井上幸紀	神経精神科	その他の精神障害	産業安全保健ハンドブック 778-781 (2013年7月)
36	井上幸紀	神経精神科	「職場のうつ」は「うつ病」なのか	こころの科学 第169号 20-24(2013年4月)
37	谷宗英	神経精神科	抗不安薬(エチゾラム、クロチアゼパム、フルタゾラム)	精神・神経の治療薬事典 2014-'15、2-11 (2013年11月)
38	片上素久	神経精神科	抗不安薬(ロラゼパム、アルプラゾラム、フルジアゼパム、プロマゼパム)	精神・神経の治療薬事典 2014-'15、12-19 (2013年11月)
39	片上素久	神経精神科	インターネット依存障害	臨床精神医学 42(9):1133-1139 (2013年)
40	松田泰範	神経精神科	抗不安薬(メキサゾラム、ジアゼパム、クロキサゾラム、クロルジアゼポキシド、クロラゼパム、クロラゼパム)	精神・神経の治療薬事典 2014-'15、20-29 (2013年11月)
41	出口裕彦	神経精神科	Relationships between occupational stress and depressive symptoms among prison officers in Japan	Osaka City Med. J Vol. 59, 91-98, 2013. (2013年6月)
42	出口裕彦	神経精神科	外来での森田療法的アプローチが有効であった社交不安障害を併存するアルコール症者の一例	日本森田療法学会雑誌 24(2): 189-196 (2013年12月)
43	高見俊宏	脳神経外科	脊髄腫瘍の手術戦略	脳神経外科速報 23(7)772-781 (2013年)
44	阿部純也	脳神経外科	腎細胞癌由来の転移性脊髄腫瘍に対する手術治療:2例報告	脳神経外科ジャーナル 22 475-480 (2013年)
45	後藤剛夫	脳神経外科	経錐体到達法の基本手技 (基本をマスター 脳神経外科手術のスタンダード)	脳神経外科速報 23(11)1200-1205 (2013年)
46	池田英敏	脳神経外科	Analysis of progression and recurrence of meningioma using11C-methionine PET	Annals of Nuclear Medicine 27(8)772-780 (2013年10月)
47	山縣 徹	脳神経外科	Goel-Harms 環軸椎後方固定術 一合併症回避と外側環軸関節露出について-	脊髄外科 27(3)245-251 (2013年)
48	後藤剛夫	脳神経外科	頭蓋咽頭腫に対する手術到達法選択の重要性	脳神経外科ジャーナル 23(1)12-19 (2013年)
49	高見俊宏	脳神経外科	脊椎脊髄腫瘍:脊椎腫瘍・脊髄腫瘍	NEUROLOGICAL SURGERY 脳神経外科 42(3)269-285 (2013年)
50	後藤剛夫	脳神経外科	基本手術手技-各論- 頭蓋底外科の必須知識	脳神経外科の基本手術 脳神経外科診療プラクティス2 160-165 (2013年)
51	高見俊宏	脳神経外科	脊椎前方到達法	脳神経外科の基本手術 脳神経外科診療プラクティス2 254-264 (2013年)
52	高見俊宏	脳神経外科	脊髄腫瘍に対する化学療法	脊椎精髄ジャーナル 27(4)377-381 (2013年)
53	金城雄太	脳神経外科	橋海綿状血管腫に対する経錐体到達法	脳神経外科ジャーナル 23(4)341-346 (2013年)

番号	発表者名	所属	題名	雑誌名
54	内藤堅太郎	脳神経外科	頸椎変性疾患に対するボックス型チタンケージ単独椎間固定の画像評価	日本脊髄障害医学会誌 27(1)64-65 (2013年)
55	内藤堅太郎	脳神経外科	脊髄円椎近傍腫瘍の臨床的特徴	日本脊髄障害医学会誌 27(1)130-131 (2013年)
56	有馬大紀	脳神経外科	脊髄髄膜腫における手術摘出と機能温存の臨床検討	日本脊髄障害医学会誌 27(1)136-137 (2013年)
57	山本晃	放射線科	Radiofrequency ablation of liver tumors in combination with local OK-432 injection prolongs survival and suppresses distant tumor growth in the rabbit model with intra- and extrahepatic VX2 tumors.	Cardiovascular and interventional radiology. 36(5)1383-1392 (2013年10月)
58	細野雅子	放射線治療科	A dose-volume intercomparison of volumetric-modulated arc therapy, 3D static conformal, and rotational conformal techniques for portal vein tumor thrombus in hepatocellular carcinoma.	Journal of radiation research. 54(4)697-705 (2013年7月)
59	細野雅子	放射線治療科	Single institutional experience of the treatment of angiosarcoma of the face and scalp.	The British journal of radiology. 86(1030)20130439 (2013年10月)
60	平田一人	呼吸器内科	Skeletal-related events in advanced lung adenocarcinoma patients evaluated EGFR mutations.	Osaka City Medical Journal 59(1):45-52 (2013年6月)
61	平田一人	呼吸器内科	Reaction of plasma adiponectin level in non-small cell lung cancer patients treated with EGFR-TKIs.	Osaka City Medical Journal 59(1):53-60 (2013年6月)
62	平田一人	呼吸器内科	C609T Polymorphism of NADPH Quinone Oxidoreductase 1 Correlates Clinical Hematological Toxicities in Lung Cancer Patients Treated with Amrubicin.	Clinical Medicine Insights: Oncology 7:31-39 (2013年7月)
63	平田一人	呼吸器内科	Plasma RANTES, IL-10, and IL-8 levels in non-small-cell lung cancer patients treated with EGFR-TKIs.	BMC Research Notes 6:139 (2013年8月)
64	平田一人	呼吸器内科	Whole-Genome Sequence of the Potentially Hypertransmissible Multidrug-Resistant Mycobacterium tuberculosis Beijing Strain OM-V02_005.	Genome Announcements 1(4):e00608-00613 (2013年8月)
65	塩見 進	核医学科	Effect of caffeine-containing beverage consumption on serum alanine aminotransferase levels in patients with chronic hepatitis C virus infection: a hospital-based cohort study	PLOS ONE 8:e83382(2013年12月)
65	塩見 進	核医学科	Clinical assessment of delayed gastric emptying and diabetic complications using gastric emptying scintigraphy: involvement of vascular disorder.	Clin Physiol Funct Imaging 34:151-158(2014年3月)
67	河邊讓治	核医学科	Focused approach to ectopic mediastinal parathyroid surgery assisted by radio-guided navigation	Surg Today 44:533-539 (2014年3月)
68	元村尚嗣	形成外科	Psycho-oncological aspect of surgery in palliative care: our satisfactory experience using a V-Y island flap.	Acta Otolaryngol. 2013 ;133(3):334-6. (2012年10月)
69	元村尚嗣	形成外科	A hybrid therapy for buerger's disease using distal bypass and a free temporoparietal fascial flap: a case report.	J Foot Ankle Surg. 2014 May-Jun;53(3):312-5.(2014年3月)
70	元村尚嗣	形成外科	【糖尿病性足潰瘍の局所治療の実践】形成外科医の行うdistal bypass in situ saphenous vein graft	PEPARS 2014:85号:59-67(2014年1月)
71	元村尚嗣	形成外科	疼痛の著しい上肢Buerger病に対する動脈交感神経切除および自家静脈バイパス術を施行した1例	日本マイクロサージャリー学会会誌 2014:26(2):75-80(2013年7月)
72	元村尚嗣	形成外科	【皮膚悪性腫瘍-基礎と臨床の最新研究動向-】悪性黒色腫 悪性黒色腫の治療 外科的治療 顔面の悪性黒色腫切除後の再建法	日本臨床 2013;71巻増刊4:皮膚悪性腫瘍:311-317(2013年8月)
73	元村尚嗣	形成外科	【Oncoplastic Skin Surgery-私ならこう治す!】頭部の皮膚悪性腫瘍	PEPARS 2013:76号:1-9(2013年4月)
74	羽多野 隆治	形成外科	ラット熱傷モデルでのレーザースポット画像血流計による熱傷深達度の評価	創傷 2014;5(1):16-21(2014年1月)
75	小澤俊幸	形成外科	Intraoperative Adjustment of Eyelid Level in Aponeurotic Blepharoptosis Surgery.	Ann Plast Surg. 2013 Jul 29.(2013年7月)
76	小澤俊幸	形成外科	Preauricular transparotid approach to mandibular condylar fractures without dissecting facial nerves.t.	J Craniofac Surg. 2013 Jul;24(4):1365-7.(2013年7月)
77	久保正二	肝胆膵外科	術後合併症からみた肝切除術における腹腔ドレーンの意義	日本外科感染症学会雑誌 10(4)375-381 (2013年9月)
78	久保正二	肝胆膵外科	インターフェロンで肝癌の再発予防は可能ですか?	肝癌診療 Q&A 書籍(初版) 20-22 (2013年10月)
79	久保正二	肝胆膵外科	周術期管理	肝癌診療ガイドライン 書籍(第3版) 93-98 (2013年10月)

番号	発表者名	所属	題名	雑誌名
80	久保正二	肝胆膵外科	肝切除術後胆汁漏と細菌感染に関する多施設共同研究	日本外科感染症学会雑誌 10(6)725-728 (2013年12月)
81	久保正二	肝胆膵外科	Development of a miR-26 companion diagnostic test for adjuvant interferon- $\alpha$ therapy in hepatocellular carcinoma	International Journal of Biological Science 9(3)303-312 (2013年4月)
82	久保正二	肝胆膵外科	Clinicopathological features of recurrence in patients after 10-year disease-free survival following curative hepatic resection of hepatocellular carcinoma	World Journal of Surgery 37(4)820-828 (2013年4月)
83	久保正二	肝胆膵外科	Impact of laparoscopic liver resection for hepatocellular carcinoma with F4-liver cirrhosis	Surgical Endoscopy 27(7)2592-2597 (2013年7月)
84	久保正二	肝胆膵外科	Randomized multicenter trial comparing tacrolimus plus mycophenolate mofetil with tacrolimus plus steroids among HCV-positive recipients of LDLT	Liver Transplantation 19(8)896-906 (2013年8月)
85	佐々木康之	心臓血管外科	Coronary-subclavian steal syndromeに対する腋窩-腋窩動脈バイパス術	胸部外科:66(5) P371-373(2013年5月)
86	細野光治	心臓血管外科	心臓の解剖、線維骨格ってなに？	心エコー:14(8) P718-724(2013年)
87	平居秀和	心臓血管外科	Is elimination of cardiomy suction preferable in aortic valve replacement? Assessment of perioperative coagulation, fibrinolysis and inflammation.	Interactive CardioVascular and Thoracic Surgery:17(3) P507-514(2013年3月)
88	平居秀和	心臓血管外科	Does rich coronary collateral circulation distal to chronically occluded left anterior descending artery compete with graft flow.	Interactive CardioVascular and Thoracic Surgery:17(6) P944-949(2013年8月)
89	末廣茂文	心臓血管外科	Preoperative Increasing C-reactive Protein Affects the Outcome for Active Infective Endocarditis.	Annals of thoracic and cardiovascular surgery:20(1) P48-54(2014年2月)
90	末廣茂文	心臓血管外科	ステント留置後5年目に発症した外腸骨動脈破綻を伴った腸腰筋膿瘍の1例	日本外科感染症学会誌:11(1) P77-80(2014年2月)
91	尾藤康行	心臓血管外科	大伏在静脈グラフトによる順行性バイパス術を施行した腹部アンギーナの2例	日本血管外科学会雑誌:23(3) P738-742(2014年4月)※3月発表
92	李 栄柱	肝胆膵外科(食道)	胸腔鏡下食道癌手術	消化器外科36(5)528-538(2013年4月)
93	藤原有史	肝胆膵外科(食道)	直腸癌低位前方切除・器械吻合後の直腸腔瘻に対する薄筋筋弁充填術の経験	日本大腸肛門病学会雑誌 66(8)97-104(2013年8月)
94	大杉治司	肝胆膵外科(食道)	胸腔鏡食道癌根治術-左側臥位	手術67(10)1411-1416(2013年9月)
95	藤原有史	肝胆膵外科(食道)	腹腔鏡下尿管摘除術を行った尿管膿瘍の2例	日本臨床外科学会雑誌 74(10)2912-2916(2013年10月)
96	李 栄柱	肝胆膵外科(食道)	食道癌術後合併症の治療	外科76(1)32-37(2014年1月)
97	大杉治司	肝胆膵外科(食道)	胸腔鏡食道癌根治術	手術68(1)1-4(2014年1月)
98	大杉治司	肝胆膵外科(食道)	食道癌内視鏡外科手術の最前線 内視鏡外科手術の利点・欠点、最新の進歩、内視鏡外科手術は開胸手術を超えたか	Frontiers in Gastroenterology19(1)38-44(2014年1月)
99	大杉治司	肝胆膵外科(食道)	微細解剖に基づいた食道癌に対する郭清手技	手術68(2)202-208(2014年2月)
100	西山典利	呼吸器外科	Myristoylated alanine-rich C-kinase substrate as a prognostic biomarker in human primary lung squamous cell carcinoma	Cancer Biomarkers 13(13)289-298(2013年4月)
101	西山典利	呼吸器外科	Clinicopathological Significance of Combined Analysis of Cytokeratin19 Expression and Preoperative Serum CYFRA21-1 Levels in Human Lung Squamous Cell Carcinoma	Osaka City Medical Journal 59(1)35-44(2013年6月)
102	西山典利	呼吸器外科	経皮針生検5年後に胸腔内穿破した縦隔良性神経鞘腫の1例	日本呼吸器外科学会雑誌 27(5) 122-127(2013年7月)
103	西山典利	呼吸器外科	Sialyl Lewis X as a predictor of skip N2 metastasis in clinical stage IA non-small cell lung cancer	World Journal of Surgical Oncology 11:309(2013年12月)
104	西山典利	呼吸器外科	Focused approach to ectopic mediastinal parathyroid surgery assisted by radio-guided navigation	Surgery Today 44(3):533-539(2014年3月)
105	諸富嘉樹	小児外科	【膵・胆管合流異常アップデート】先天性胆道拡張症の肝内胆管形態	小児外科45巻6号 Page647-651 (2013.06)
106	諸富嘉樹	小児外科	【膵・胆管合流異常診療ガイドラインを巡る残された問題点】膵・胆管合流異常の名称を巡る問題点	胆と膵34巻3号 Page221-223(2013.04)

番号	発表者名	所属	題名	雑誌名
107	諸富嘉樹	小児外科	【単孔式内視鏡手術】 鼠径ヘルニア手術 (LPEC)	小児外科46巻3号 Page277-280(2014.03)
108	天野良亮	腫瘍外科	Prognostic predictive values of gemcitabine sensitivity-related gene products for unresectable or recurrent biliary tract cancer treated with gemcitabine alone	World Journal of Surgical Oncology 11:117, 2013
109	森本純也	腫瘍外科	The impact of the number of occult metastatic lymph nodes on postoperative relapse of resectable esophageal cancer	Diseases of Esophagus 27: 63-71, 2014
110	木村健二郎	腫瘍外科	MUC1 and HER2 might be associated with invasive phenotype of intraductal papillary mucinous neoplasm (IPMN)	Hepatogastroenterology 60: 1067-1072, 2013
111	八代正和	腫瘍外科	IGF-1 receptor and IGF binding protein-3 might predict prognosis of patients with resectable pancreatic cancer	BMC Cancer 13: 392, 2013
112	田中浩明	腫瘍外科	Role of tumor-infiltrating CD11b+ antigen-presenting cells in the progression of gastric cancer	Journal of Surgical Research 186: 192-200, 2014
113	田中浩明	腫瘍外科	Intranodal lymphangiogenesis precedes development of lymph node metastasis and accelerates progression of gastric cancer	Journal of Gastrointestinal Surgery 18: 481-490, 2014
114	八代正和	腫瘍外科	Cancer-associated fibroblasts might sustain the stemness of scirrhous gastric cancer cells via transforming growth factor- $\beta$ signaling	International Journal of Cancer 134: 1785-1795, 2014
115	山村 仁	救急医学	体温測定	救急医学 37 No9, pp996-999, 2013
116	山村 仁	救急医学	摂食障害(飢餓状態)	救急医学 37 No12, pp1772-1775, 2013
117	溝端 康光	救急医学	Permissive hypotension	救急医学 37 No5, pp584-589, 2013
118	間中 智哉	整形外科	JuggerKnotソフトアンカーを用いた鏡視下腱板修復術の短期臨床成績	肩関節 37(3)1113-1116 (2013年10月)
119	岡田 充弘	整形外科	術中電気生理学的検査による手根管症候群重症例における正中神経の神経上膜剥離の必要性の検討(第1報)	日本手外科学会雑誌 29(6) 837-839 (2013年4月)
120	上村 卓也	整形外科	末梢神経の再生医療 生体吸収性人工神経を用いたiPS cell- & bFGF drug-delivery systemの有効性	末梢神経 24(1) 90-98(2013年6月)
121	星 学	整形外科	頭頸部科より肉腫として紹介された軟部肉腫の1例	中部日本整形外科学会雑誌 56(6) 1433-1434 (2013年11月)
122	間中 智哉	整形外科	JuggerKnotソフトアンカーを用いた鏡視下腱板修復術の短期臨床成績	肩関節 37(3) 1113-1116 (2013年10月)
123	富永 和作	消化器内科	Cytoglobin may be involved in the healing process of gastric mucosal injuries in the late phase without angiogenesis.	Dig Dis Sci. 2013 May;58(5):1198-206.
124	荒川 哲男	消化器内科	Relation between bile acid reflux into the stomach and the risk of atrophic gastritis and intestinal metaplasia: A multicenter study of 2283 cases.	Dig Endosc.2013 Sep;25(5):519-25
125	富永 和作	消化器内科	Endoscopic radial incision and cutting method for refractory esophageal stricture after endoscopic submucosal dissection of superficial esophageal carcinoma.	Dig Endosc. 2013 Mar;25(2):200-3
126	富永 和作	消化器内科	Clinical Classification of Subgroups According to the Rome III Criteria Cannot be Used to Distinguish the Associated Respective Pathophysiology in Japanese Patients with Functional Dyspepsia.	Intern Med. 2013;52(12):1289-93.
127	渡邊 俊雄	消化器内科	Incidence and risk factors of gastrointestinal bleeding in patients on low-dose aspirin therapy after percutaneous coronary intervention in Japan.	Scand J Gastroenterol. 2013 Mar;48(3):320-5
128	山上 博一	消化器内科	Infliximab and/or immunomodulators inhibit immune responses to trivalent influenza vaccination in adults with inflammatory bowel disease.	J Crohns Colitis. 2013 Sep 4. pii: S1873-9946(13)00279-1.
129	渡邊 俊雄	消化器内科	High-Mobility Group Box 1 Inhibits Gastric Ulcer Healing through Toll-Like Receptor 4 and Receptor for Advanced Glycation End Products.	PLoS One. 2013 Nov 11;8(11):e80130.
130	富永 和作	消化器内科	Mesenchymal stem cells administered in the early phase of tumorigenesis inhibit colorectal tumor development in rats.	J Clin Biochem Nutr. 2013 Nov;53(3):170-5.
131	藤原 靖弘	消化器内科	Role of small intestinal bacterial overgrowth in severe small intestinal damage in chronic non-steroidal anti-inflammatory drug users.	Scand J Gastroenterol. 2014 Mar;49(3):267-73.
132	渡辺 憲治	消化器内科	A questionnaire-based survey on the diagnosis and management of inflammatory bowel disease in East asian countries in 2012.	Digestion. 2014;89(1):88-103.
133	富永 和作	消化器内科	Randomised clinical trial: rabeprazole improves symptoms in patients with functional dyspepsia in Japan.	Aliment Pharmacol Ther. 2013 Oct;38(7):729-40

番号	発表者名	所属	題名	雑誌名
134	斯波 将次	消化器内科	Covered self-expandable metal stents with an anti-migration system improve patency duration without increased complications compared with uncovered stents for distal biliary obstruction caused by pancreatic carcinoma: a randomized multicenter trial.	Am J Gastroenterol. 2013 Nov;108(11):1713-22.
135	渡辺 憲治	消化器内科	Use of capsule endoscopy in patients with Crohn's disease in Japan: a multicenter survey.	J Gastroenterol Hepatol. 2014;29:96-101
136	谷川 徹也	消化器内科	胃潰瘍治療過程におけるアンチエイジング分子Klothoの発現動態と胃潰瘍治療に及ぼす影響	潰瘍 40巻 Page64-68
137	渡辺 憲治	消化器内科	当院における潰瘍性大腸炎に対するインフリキシマブの臨床成績	潰瘍40巻 Page44-46
138	藤原 靖弘	消化器内科	夜間逆流と睡眠との関連	日本消化器病学会雑誌110:965-970
139	富永 和作	消化器内科	【機能性消化管障害(FGID):診断と治療の進歩】最近の話題 今後期待される薬物療法(解説/特集)	日本内科学会雑誌 102:96-104
140	富永 和作	消化器内科	上部消化管内視鏡検査中に広範囲に胃粘膜裂創を来した胃サルコイドーシスの1例	Gastroenterological Endoscopy 55: 3102-3108
141	荒川 哲男	消化器内科	経カテーテル的肝動脈塞栓術後に腫瘍崩壊症候群をきたした肝細胞癌の1例	日本消化器病学会雑誌 110(3): 441-448, 2013
142	藤原 靖弘	消化器内科	Successful treatment of betamethasone syrup on autoimmune esophagitis.	Am J Gastroenterol. 2014 Mar;109(3):451-3.
143	橘 大介	産婦人科	Pregnancy complicated by cervical varix and low-lying placenta: a case report. Kurihara Y, Tachibana D, Teramae M, Matsumoto M, Terada H, Sumi T, Koyama M, Ishiko O.	Jpn Clin Med. 2013 Apr 9;4:21-4.
144	橘 大介	産婦人科	Pathological findings in a case of failed uterine artery embolization for placenta previa. Wada N, Tachibana D, Nakagawa K, Terada H, Nakano A, Sumi T, Koyama M, Ishiko O, Nishida N.	Jpn Clin Med. 2013 Apr 14;4:25-8.
145	角 俊幸	産婦人科	Presentation of a Patient who Underwent Fertility-Sparing Surgeries for Contralateral Recurrence of Ovarian Immature Teratoma with Gliomatosis Peritonei. Seo S, Matsumoto Y, Tsukioka M, Sumi T, Wakasa K, Ishiko O.	Jpn Clin Med. 2013 May 6;4:37-40.
146	橋口 裕紀	産婦人科	Late recurrence of malignant melanoma mimicking primary peritoneal cancer. Sano M, Hashiguchi Y, Yasui T, Sumi T, Wakasa K, Ishiko O.	Eur J Gynaecol Oncol. 2013;34(3):265-8.
147	角 俊幸	産婦人科	Treatment of advanced ovarian carcinoma coexistent with peritoneal tuberculosis. Nagashima A, Matsumoto Y, Ohsawa M, Sumi T.	Mol Clin Oncol. 2013 Nov;1(6):1084-1086.
148	角 俊幸	産婦人科	Association of copper transporter expression with platinum resistance in epithelial ovarian cancer. Yoshida H, Teramae M, Yamauchi M, Fukuda T, Yasui T, Sumi T, Honda K, Ishiko O.	Anticancer Res. 2013 Apr;33(4):1409-14.
149	森岡与明	生活習慣病・糖尿病センター	Comparison of effects of pioglitazone and glimepiride on plasma soluble RAGE and RAGE expression in peripheral mononuclear cells in type 2 diabetes: Randomized controlled trial (PioRAGE).	Atherosclerosis. 2014 Jun;234(2):329-34. (2014年6月)
150	石村栄治	腎臓内科	Significant association of poor glycemic control with increased resistance in efferent arterioles--study of inulin and para-aminhippuric acid clearance in humans.	Diabetes Res Clin Pract. 2014 May;104(2):234-40. (2014年5月)
151	田原英樹	内分泌・骨・リウマチ内科	Strategy of operative treatment of hyperparathyroidism using US scan and (99m)Tc-MIBI SPECT/CT.	Endocr J. 2014 Mar 30;61(3):225-30. (2014年3月)
152	稲葉雅章	内分泌・骨・リウマチ内科	Neuroinflammation in Patients with Chronic Fatigue Syndrome/Myalgic Encephalomyelitis: An 11C-(R)-PK11195 PET Study.	J Nucl Med. 2014 Mar 24;55(6):945-950. (2014年3月)
153	絵本正憲	生活習慣病・糖尿病センター	Clinical assessment of delayed gastric emptying and diabetic complications using gastric emptying scintigraphy: involvement of vascular disorder.	Clin Physiol Funct Imaging. 2014 Mar;34(2):151-8. (2014年3月)
154	絵本正憲	生活習慣病・糖尿病センター	Glycated hemoglobin and risk of death in diabetic patients treated with hemodialysis: a meta-analysis.	Am J Kidney Dis. 2014 Jan;63(1):84-94. (2014年1月)
155	庄司哲雄	生活習慣病・糖尿病センター	Kidney function, cholesterol absorption and remnant lipoprotein accumulation in patients with diabetes mellitus.	J Atheroscler Thromb. 2014;21(4):346-54. (2014年)
156	森克仁	生活習慣病・糖尿病センター	Direct inhibitory effects of pioglitazone on hepatic fetuin-A expression.	PLoS One. 2014 Feb 13;9(2):e88704. (2014年2月)
157	稲葉雅章	内分泌・骨・リウマチ内科	Increased soluble IL-2 receptor levels in serum from a patient with painless thyroiditis.	Thyroid Res. 2013 Dec 5;6(1):12. (2013年12月)
158	稲葉雅章	内分泌・骨・リウマチ内科	Positive association between plasma levels of oxidized low-density lipoprotein and myeloperoxidase after hemodialysis in patients with diabetic end-stage renal	Hemodial Int. 2013 Oct;17(4):557-67. (2013年10月)
159	石村栄治	腎臓内科	Significant positive relationship between serum magnesium and muscle quality in maintenance hemodialysis patients.	Magnes Res. 2013 Oct-Dec;26(4):182-7. (2013年10月-12月)

番号	発表者名	所属	題名	雑誌名
160	稲葉雅章	内分泌・骨・リウマチ内科	Myeloperoxidase and progression of aortic valve stenosis in patients undergoing hemodialysis.	J Heart Valve Dis. 2013 Sep;22(5):640-7. (2013年9月)
161	庄司哲雄	生活習慣病・糖尿病センター	Autonomic function is associated with health-related quality of life in patients with end-stage renal disease: a case-control study.	J Ren Nutr. 2013 Sep;23(5):340-7. (2013年9月)
162	稲葉雅章	内分泌・骨・リウマチ内科	Relationship between serum TSH levels and intrarenal hemodynamic parameters in euthyroid subjects.	Eur J Endocrinol. 2013 Jun 1;169(1):45-50. (2013年6月)
163	石村栄治	腎臓内科	Hair magnesium, but not serum magnesium, is associated with left ventricular wall thickness in hemodialysis patients.	Circ J. 2013;77(12):3029-36. (2013年)
164	石村栄治	腎臓内科	Nephronectin expression in glomeruli of renal biopsy specimens from various kidney diseases: nephronectin is expressed in the mesangial matrix expansion of diabetic nephropathy.	Nephron Clin Pract. 2012;122(3-4):114-21. (2013年5月)
165	山根英雄	耳鼻咽喉科	めまいを伴う悪心・嘔吐 症状別診療guideもう慌てない！悪心・嘔吐の診方	日本医事新報 4638:2013. 3. 16: 41-44.
166	田中あけみ	小児科	日本人Gaucher病(I型、II型およびIII型)患者に対するセラザイムの8年間の製造販売後調査結果による有効性と安全性の検討	小児科診療76(8):1325-1334,2013
167	瀬戸俊之	小児科	ムンブスー中枢神経合併症を中心に。日本臨牀別冊,神経症候群I, 2013(印刷中). 瀬戸俊之. 亜急性硬化性全脳炎.特集・クローズアップ【脳炎・脳症・髄膜炎】	小児内科 45: 330-5. 2013年12月
168	吉本公美子	眼科	薬剤性多発脳神経麻痺に伴う外転神経麻痺の1例	臨床眼科 67巻6号965-969頁(2013年6月)
169	宇根宏容	眼科	右目異物感による受診で東洋眼虫を認めた1例	眼科臨床紀要 6巻8号630-632頁(2013年8月)
170	竹本 恭彦	総合診療センター	Simultaneous assessment of endothelial function and morphology in the brachial artery using a new semiautomatic ultrasound system	Hypertension Research, 36, 691-697, 2013 (2013年8月掲載)
171	舟尾友晴	麻酔科	Relationship between noradrenaline release in the locus coeruleus and antiallodynic efficacy of analgesics in rats with painful diabetic neuropathy.	Life Science 92: 1138-1144, 2013
172	田中克明	麻酔科	Systemic vascular resistance has an impact on the reliability of the Vigileo-FloTrac system in measuring cardiac output and tracking cardiac output changes	British Journal of Anaesthesia 111(2): 170-177, 2013
173	田中克明	麻酔科	Discrepancy Between Superior Vena Cava Oxygen Saturation and Mixed Venous Oxygen Saturation Can Predict Postoperative Complications in Cardiac Surgery Patients.	Journal of CardioThorathic and Vascular Anesthesia, 2013 in press
174	濱田拓	麻酔科	Anesthesia for Emergency Cesarean Section in a Parturient with Noonan Syndrome	Anesthesia and Clinical Research 4(11), 368, 2013
175	松浦正	麻酔科	The effect of lipid emulsion on intracellular bupivacaine as a mechanism of lipid resuscitation: an electrophysiological study using voltage-gated proton channels.	Anesthesia and Analgesia 117(6): 1293-1301, 2013
176	田中克明	麻酔科	A delayed case of tension pneumopericardium after total gastrectomy.	Jornal of Clinical Anesthesia 26(1): 58-61, 2013
177	田中克明	麻酔科	Detection of Left Ventricular Dysfunction Using Early Diastolic Mitral Annular Velocity in Patients Undergoing Mitral Valve Repair for Mitral Regurgitation.	Journal of CardioThorathic and Vascular Anesthesia 28(1): 25-30, 2014
178	大澤 政彦	病理部	Positive association between plasma levels of oxidized low-density lipoprotein and myeloperoxidase after hemodialysis in patients with diabetic end-stage renal disease	Hemodialysis International 17(4):557-67 (2013年10月)
179	大澤 政彦	病理部	MUC1 and HER2 might be associated with invasive phenotype of intraductal papillary mucinous neoplasm	Hepatogastroenterology 60(125):1067-72 (2013年7月-8月)
180	大澤 政彦	病理部	Association between hemoglobin scavenger receptor and heme oxygenase-1-related anti-inflammatory mediators in human coronary stable and unstable plaques	Human Pathology 44(10):2256-65 (2013年10月)
181	大澤 政彦	病理部	Images of Sonazoid-enhanced ultrasonography in multistep hepatocarcinogenesis: comparison with Gd-EOB-DTPA-enhanced MRI	Journal of Gastroenterology [Epub ahead of print] (2013年8月)
182	大澤 政彦	病理部	Management of postoperative intraabdominal abscess in laparoscopic versus open appendectomy	Osaka City Medical journal 59(1):1-7 (2013年6月)
183	大澤 政彦	病理部	[Angioimmunoblastic T cell lymphoma complicated with endocapillary proliferative glomerulonephritis]	Rinsho Ketsueki 54(7):658-63 (2013年7月)
184	大澤 政彦	病理部	The significance of platelet consumption in the development of thrombocytopenia in patients with cirrhosis	The American Journal of the Medical Sciences 346(3):199-203 (2013年9月)
185	大澤 政彦	病理部	Adjunctive imprint cytology of core needle biopsy specimens improved diagnostic accuracy for breast cancer	Springer Plus 2:372 (2013年8月)
186	大澤 政彦	病理部	Clinical significance of the sub-classification of 71 cases mucinous breast carcinoma	Springer Plus 2:481 (2013年9月)

番号	発表者名	所属	題名	雑誌名
187	大澤 政彦	病理部	Gender-specific correlation between plasma myeloperoxidase levels and serum high-density lipoprotein-associated paraoxonase-1 levels in patients with stable and unstable coronary artery disease	Atherosclerosis 231(2):308-14 (2013年12月)
188	大澤 政彦	病理部	Myeloperoxidase and progression of aortic valve stenosis in patients undergoing hemodialysis	The Journal of Heart Valve Disease22(5):640-7 (2013年9月)
189	大澤 政彦	病理部	Case series of 17 patients with cholangiocarcinoma among young adult workers of a printing company in Japan	Journal of Hepato-Biliary-Pancreatic Sciences [Epub ahead of print] (2014年1月)
190	大澤 政彦	病理部	Relationship between oxidative stress and aortic valve stenosis in humans: an immunohistochemical study	Osaka City Medical journal 59(2):61-7 (2013年12月)
191	大澤 政彦	病理部	Enhanced expression of hemoglobin scavenger receptor and heme oxygenase-1 is associated with aortic valve stenosis in patients undergoing hemodialysis	Hemodialysis International [Epub ahead of print] (2014年2月)
192	大澤 政彦	病理部	Treatment of advanced ovarian carcinoma coexistent with peritoneal tuberculosis	Molecular and Clinical Oncology 1(6):1084-1086 (2013年11月)
193	田守昭博	肝胆膵病態内科学	Relationship between inosine triphosphate genotype and outcome of extended therapy in hepatitis C virus patients with a late viral response to pegylated-interferon and ribavirin. J	Gastroenterol Hepatology (2014年1月) 29巻201-207ページ
194	河田則文	肝胆膵病態内科学	Effect of caffeine-containing beverage consumption on serum alanine aminotransferase levels in patients with chronic hepatitis C virus infection: a hospital-based cohort study.	PLoS One. (2013年12月) 10巻1371ページ
195	田守昭博	肝胆膵病態内科学	Influenza A(H1N1)pdm09 vaccine effectiveness and other characteristics associated with hospitalization in chronic liver disease patients.	Liver International (2013年8月) 10巻1111ページ
196	村上善基	肝胆膵病態内科学	Association between Hepatic Steatosis and Hepatic Expression of Genes Involved in Innate Immunity in Patients with Chronic Hepatitis C.	Cytokine (2013年8月) 63巻145-150
197	村上善基	肝胆膵病態内科学	Impact of HBV Integration into Liver Tissue on the Efficacy of Peginterferon and Ribavirin Therapy in HBV-Negative Chronic Hepatitis C Patients	Journal of Clinical Gastroenterology (2013年7月) 48巻73-79ページ
198	河田則文	肝胆膵病態内科学	Serum Fucosylated Haptoglobin as a Novel Diagnostic Biomarker for Predicting Hepatocyte Ballooning and Nonalcoholic Steatohepatitis.	PLoS One. (2013年6月) 8巻1111ページ
199	河田則文	肝胆膵病態内科学	Serum Mac-2 binding protein levels as a novel diagnostic biomarker for prediction of disease severity and nonalcoholic steatohepatitis.	Proteomics (2013年6月) 10巻1002ページ
200	河田則文	肝胆膵病態内科学	Cytoglobin may be involved in the healing process of gastric mucosal injuries in the late phase without angiogenesis.	Digestive Diseases and Sciences (2013年5月) 58巻1198-1206ページ
201	田守昭博	肝胆膵病態内科学	A pregnant woman with acute hepatitis B in whom vertical transmission was prevented by tenofovir disoproxil fumarate	Journal of Gastroenterology (2013年4月) 6巻 173-176ページ
202	村上善基	肝胆膵病態内科学	Principal Component Analysis Based Feature Extraction Approach to Identify Circulating microRNA Biomarkers.	PLoS One. (2013年6月) 10巻1371ページ
203	河田則文	肝胆膵病態内科学	サイトグロビン研究の現況と展望	日本臨床 (2013年5月) 71巻927-935ページ
204	元山宏行	肝胆膵病態内科学	肝臓とサイトグロビン	細胞 (2013年12月) 45巻609-612ページ
205	田守昭博	肝胆膵病態内科学	長期観察によるHBV再活性化の頻度と治療介入例の予後	消化器内科 (2013年11月) 57巻 586-590ページ
206	田守昭博	肝胆膵病態内科学	Daclatasvir併用interferon療法	肝胆膵 (2013年12月) 67巻 913-917ページ
207	村上善基	肝胆膵病態内科学	【特集/疾患ゲノム研究のLandscape】エクソソーム中マイクロRNAを利用した慢性肝疾患診断法の開発	肝胆膵 (2013年7月) 67巻 93-103ページ
208	鶴田 大輔	皮膚科	An attempt to develop mouse model for anti-laminin $\gamma$ 1 pemphigoid	Journal of Dermatological Science 70(2):108-115(2013年5月)
209	深井 和吉	皮膚科	Piebaldism	Journal of Dermatology 40(5):330-335(2013年5月)
210	深井 和吉	皮膚科	Guidelines for the diagnosis and treatment of vitiligo in Japan	Journal of Dermatology 40(5):344-354(2013年5月)
211	菅原 弘二	皮膚科	Topobiology of human pigmentation: P-cadherin selectively stimulates hair follicle melanogenesis	Journal of Investigative Dermatology 133(6):1591-1600(2013年6月)
212	鶴田 大輔	皮膚科	IgA pemphigus with non-pustular erythematous lesions and IgA antibodies to desmocolins 1 and 2	European Journal of Dermatology 23(3):362-365(2013年6月)
213	鶴田 大輔	皮膚科	What is the role of antimicrobial peptides (AMP) in acne vulgaris?	Experimental Dermatology 22(6):386-391(2013年6月)

番号	発表者名	所属	題名	雑誌名
214	鶴田 大輔	皮膚科	Anaphylaxis caused by ingestion of jellyfish	European Journal of Dermatology 23(3):392-395(2013年6月)
215	鶴田 大輔	皮膚科	Discoid lupus erythematosus with the presence of a lupus band in the hair follicle basement membrane zone and IgA anti-BP230 autoantibodies	European Journal of Dermatology 23(3):414-416(2013年6月)
216	鶴田 大輔	皮膚科	Successful treatment with 308-nm monochromatic excimer light and subsequent tacrolimus 0.03% ointment in refractory plasma cell cheilitis	Journal of Dermatology 40(6):471-474(2013年6月)
217	鶴田 大輔	皮膚科	Anti-alpha-2-macroglobulin-like-1 autoantibodies are detected frequently and may be pathogenic in paraneoplastic pemphigus	Journal of Investigative Dermatology 33(7):1785-1793(2013年7月)
218	鶴田 大輔	皮膚科	Second reported case of unilateral angiokeratoma of the vulva	Journal of Dermatology 40(9):763-764(2013年9月)
219	鶴田 大輔	皮膚科	Case of relapsing polychondritis showing elevation of anti-type II collagen antibody titer	Journal of Dermatology 40(9):767-768(2013年9月)
220	鶴田 大輔	皮膚科	Unique herpetiform bullous dermatosis with IgG antibodies to desmocollins 1/3 and LAD-1	British Journal of Dermatology 169(3):719-721(2013年9月)
221	鶴田 大輔	皮膚科	Edema and ulcers on the legs and dilated abdominal veins caused by thromboembolism of inferior vena cava in a patient with protein C deficiency	Indian Association of Dermatologists, Venereologists & Leprologists
222	鶴田 大輔	皮膚科	Two cases of pemphigus vegetans with IgG anti-desmocollin 3 antibodies	JAMA Dermatology 149(10):1209-1213(2013年10月)
223	鶴田 大輔	皮膚科	Three cases of pseudolymphoma successfully treated with amoxicillin	European Journal of Dermatology 23(5):717-718(2013年10月)
224	鶴田 大輔	皮膚科	Three cases of linear IgA/IgG bullous dermatosis showing IgA and IgG reactivity with multiple antigens, particularly laminin-332	JAMA Dermatology 149(11):1308-1313(2013年11月)
225	鶴田 大輔	皮膚科	Comparative study for the effect of photodynamic therapy, imiquimod immunotherapy and combination of both therapies on 40 lesions of actinic keratosis in Japanese	Journal of Dermatology 40(12):962-967(2013年12月)
226	鶴田 大輔	皮膚科	Effect of monochromatic excimer light on palmoplantar pustulosis: A clinical study performed in a private clinic by a dermatological specialist	Journal of Dermatology 40(12):1004-1007(2013年12月)
227	鶴田 大輔	皮膚科	Morphological changes of the hair roots in alopecia areata: A scanning electron microscopic study	Journal of Dermatology 40(12):1045-1048(2013年12月)
228	鶴田 大輔	皮膚科	Multiple unilocular epidermal cysts presenting as a single lesion on the toe web	Journal of Dermatology 40(12):1052-1054(2013年12月)
229	鶴田 大輔	皮膚科	Coexistence of Langerhans cells activation and immune cells infiltration in progressive nonsegmental vitiligo	Journal of Dermatological Science 73(1):83-5(2014年1月)
230	鶴田 大輔	皮膚科	IgG/IgA pemphigus reactive with desmoglein 1 with additional undetermined reactivity with epidermal basement membrane zone.	Indian Journal of Dermatology, Venereology and Leprology 80(1):46-50(2014年1-2月)
231	鶴田 大輔	皮膚科	Successful treatment of betamethasone syrup on autoimmune esophagitis	Am J Gastroenterol. 109(3):451-453(2014年3月)
232	鶴田 大輔	皮膚科	A rare case of male bullous lupus erythematosus complicated with subsequent annular hypopigmentation	Case Reports in Dermatology 19;6(1):91-97(2014年3月)

小計19  
合計232

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 倫理委員会の流れ、研究者の責務について、同意書の取得 など	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年12回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。  
2 「③倫理審査委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告(25年度実績)において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと(その場合には、その旨を明らかとすること)。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 利益相反の定義、マネジメント対象者、利益相反マネジメント委員会について など	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年9回

- (注) 「③利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告(平成 25 年度実績)において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと(その場合には、その旨を明らかとすること)。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年6回
・ 研修の主な内容 倫理指針、倫理審査申請、利益相反についてなど(別途 CITI Japanのe-learningを受講)	

- (注) 「①臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告(平成 25 年度実績)において実施実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと(その場合には、その旨を明らかとすること)。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

<p>(1) 的確な診断の元、治療方針・治療計画を決定し、その後の治療効果と予後の判定ができるよう、年次ごとの到達目標を定めて研修プログラムを作成している</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・臨床実地研修として、複数の症例を受け持ち、指導医とペアにするなどの指導体制のもと、指導や助言を行う</li><li>・患者回診や症例検討会へ参加</li><li>・ローテーションを行い、幅広い知識や症例数を知る</li><li>・検査手法や基本手術手技の習得</li><li>・手術前および術後管理の習得</li></ul> <p>(2) 専門医を受験・取得するための研修プログラムを用意</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・各学会へ参加</li><li>・学会提供の教育プログラム等への参加</li><li>・抄読会またはセミナー（CPC含む）への参加</li><li>・症例報告を含む臨床論文の作成</li></ul> <p>(3) その他</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・大学院希望者については、学位取得を目指し、研究等に専念する期間を設けている</li></ul>
---

2 研修の実績

研修医の人数	174人
--------	------

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
平田 一人	呼吸器内科	診療科部長	36 年	
谷川 徹也	消化器内科	医局長	19 年	
葭山 稔	循環器内科	診療科部長	33 年	
伊藤 義彰	神経内科	診療科部長	24 年	
後藤 仁志	リウマチ科	診療科副部長	29 年	
岩崎 進一	精神科	診療科副部長	19 年	
新宅 治夫	小児科	診療科部長	36 年	
西山 典利	呼吸器外科	診療科副部長	29 年	
平川 弘聖	消化器外科	診療科部長	38 年	
末廣 茂文	心臓血管外科	診療科部長	40 年	
諸富 嘉樹	小児外科	診療科副部長	27 年	
中村 博亮	整形外科	診療科部長	31 年	
山中 一浩	脳神経外科	診療科副部長	28 年	
鶴田 大輔	皮膚科	診療科部長	23 年	
仲谷 達也	泌尿器科	診療科部長	30 年	
古山 将康	産婦人科	診療科部長	34 年	
白木 邦彦	眼科	診療科部長	26 年	
山根 英雄	耳鼻咽喉科	診療科部長	37 年	
山本 晃	放射線科	講師	15 年	
西川 精宣	麻酔科	診療科部長	35 年	

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
(研修の主な内容／研修の期間・実施回数／研修の参加人数)
① 治験・臨床研究を実施する際に必要なGCP、利益相反、研究デザイン、補償・賠償等について／平成25年度 6回開催／第1回：50名、第2回：52名、第3回：25名、第4回：29名、第5回：16名、第6回：15名
② がんおよび循環器疾患の診断・治療において高度な知識習得のための研究会／大阪頭頸部癌放射線治療セミナー：H25. 11. 6、磁気共鳴懇話会：H25. 11. 6、かたろう会、システム研究分科会 H25. 11. 9、関西循環器撮影研究会：H25. 11. 30、放射線治療かたろう会：H25. 12. 7、画像処理セミナー：H25. 11. 24、冠疾患学会総会：H25. 12. 13-14、デジタルマンモグラフィ講習会：H26. 1. 12、がんプロフェッショナル養成セミナー：H26. 3. 28、日本循環器学会：H26. 3. 21-22／上記研究会、セミナー参加人数 のべ51名 (参加者が研修で学んだ内容を放射線部内研修会にて報告し、知識を共有している。)
③ 医薬品安全管理研修（新規採用者、全職員向け…麻薬の安全使用、転倒転落に注意する医薬品について）／30分×12回／409名、静脈注射研修（新人看護師）／30分×1回／85名、医療安全研修…医薬品の適正使用(注射薬より)／30分×1回／116名
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
(研修の主な内容／研修の期間・実施回数／研修の参加人数)
① 放射線業務での管理に関して／H25年度医療安全管理講習会：H25. 10. 27、第70回日本放射線技術学会総会：H26. 4. 10-13／16名 (H26. 4. 10-13の4日間にわたる日本放射線技術学会総会では、放射線管理に関するセッションや発表、セミナーなど多数あり、放射線業務の管理研修としている。)
② 事例研修／1時間×1回／31名、感染防止対策研修／1時間×2回／66名、リスクマネジメント研修／1時間×1回／34名、症例検討会／1時間×24回／360名、新薬勉強会／1時間×4回／63名、薬剤勉強会／1時間×5回／55名

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

(研修の主な内容／研修の期間・実施回数／研修の参加人数)

- ① 治験・臨床研究を実施する際に必要なGCP、利益相反、研究デザイン、補償・賠償等について／平成25年度・6回開催／第1回：5名、第2回：7名、第3回：1名、第4回：2名、第5回：2名、第6回：5名
- ② 平成26年度認定輸血検査技師制度指定施設研修／平成26年6月3日(火)～4日(水)・2日間1回／6名

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。なお、平成二十六年度中の業務報告(平成25年度実績)においては、平成二十六年四月以降の実績(計画)を報告しても差し支えないこと(その場合には、その旨を明らかにすること)。

## (様式第 5)

## 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 ②. 現状
管理責任者氏名	病院長 石河 修
管理担当者氏名	事務部長 川上悟、庶務課長 豊田雅裕、医事運営課長 川本正裕、 情報システム課長 柚原功 看護部長 大脇和子、薬剤部長 永山勝也、臨床工学部主査 松尾光則

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、 手術記録、看護記録、検査所見記録、 エックス線写真、紹介状、退院した患者 に係る入院期間中の診療経過の要約 及び入院診療計画書		庶務課 看護部 薬剤部 情報システム課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病院日誌→庶務課</li> <li>・各科診療日誌→看護部</li> <li>・処方せん→薬剤部</li> <li>・手術記録→看護部 (OPE室)</li> <li>・看護記録→情報システム課 (電カル)</li> <li>・検査所見記録→情報システム課 (電カル)</li> <li>・エックス線写真→情報システム課 (電カル)</li> <li>・紹介状→情報システム課 (電カル)</li> <li>・退院した患者に係る入院期間中の診療経過の 要約及び入院診療計画書 →情報システム課 (電カル)</li> </ul>
病院の管理 及び運営に 関する諸記 録	従業者数を明らかにする帳 簿	庶務課	
	高度の医療の提供の実績	医事運営課	
	高度の医療技術の開発及び 評価の実績	医事運営課	
	高度の医療の研修の実績	庶務課	
	閲覧実績		
	紹介患者に対する医療提供 の実績	医事運営課	
	入院患者数、外来患者及び 調剤の数を明らかにする帳 簿	医事運営課 薬剤部	
第規 一則 号第 一に 掲条 げの る十 体一 制第 の一 確項 保各 の号 状及 況び 第九	医療に係る安全管理 のための指針の整備状 況	庶務課	
	医療に係る安全管理 のための委員会の開催 状況	庶務課	
	医療に係る安全管理 のための職員研修の実 施状況	庶務課	
	医療機関内における 事故報告等の医療に係 る安全の確保を目的と した改善のための方策 の状況	庶務課	
	専任の医療に係る安全 管理を行う者の配置 状況	庶務課	

	条の二十第一項	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	庶務課	
		医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	庶務課	
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	庶務課	

		保管場所	管理方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一一条の十一第一項各号及び第九条の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	庶務課	
		院内感染対策のための委員会の開催状況	庶務課	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	庶務課	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	庶務課	
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	臨床工学部	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学部	

	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学部	
	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学部	

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画      ②. 現状
閲覧責任者氏名	病院長 石河 修
閲覧担当者氏名	事務部長 川上悟、庶務課長 豊田雅裕、 情報システム課長 柚原功
閲覧の求めに応じる場所	附属病院内5階 庶務課
閲覧の手続の概要  大阪市情報公開条例に則り、情報を公開している。公文書に関しては原則全てを公開している。	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件
閲覧者別	医 師	延	0 件
	歯 科 医 師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第 6)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"><li>指針の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>○ 組織及び体制</li><li>○ 院内報告制度</li><li>○ 医療安全管理に関する教育・研修</li><li>○ 医療事故発生時の対応</li><li>○ 事故の公表</li><li>○ 医療事故の調査と事故防止対策</li><li>○ 医療安全相談窓口</li></ul></li></ul>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 1 2 回
<ul style="list-style-type: none"><li>活動の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>○ 医療安全管理の検討及び推進に関すること</li><li>○ 医療安全管理に関すること</li><li>○ 医療事故の調査・審議及び改善策の検討に関すること</li><li>○ 医薬品に係る安全管理の検討及び推進に関すること</li><li>○ 医療機器に係る安全管理の検討及び推進に関すること</li><li>○ その他、医療安全管理に関すること</li></ul></li></ul>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 2 1 回
<ul style="list-style-type: none"><li>研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>○ 病院職員を対象とした講演会等の実施(5回)</li><li>○ 部署別事例研修の開催(1回)</li><li>○ 新規採用職員に対する医療安全管理のための組織体制や報告制度などの基本的な研修(12回)</li><li>○ 講演会及び医療事故・医事紛争事例等のDVD研修(2回)</li><li>○ 全従事者を対象としたAED講習会の開催(1回)</li></ul></li></ul>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>医療機関内における事故報告等の整備 (有・無)</li><li>その他の改善のための方策の主な内容：<p>病院の各部門は医療情報端末がオンラインで結ばれており、事故発生時には個々の端末からインシデントレポート及びアクシデントレポートを入力し報告を行うこととしている。</p><p>報告されたレポートについては、定期的にリスクマネージャー等によるレポート検討会を開催し、内容点検、原因分析、改善策の検討を行っており、必要に応じて各部門あてに詳細な調査や報告書を求めるとともに、改善の指示や情報提供、リスクマネージャー会議などで事例報告を行っている。また、特定の傾向が見られる事例については、個別の部会やワーキンググループを設けるなどして専門的な立場から事故防止対策の検討を行っている。</p><p>一方、医療従事者については、安対マンスリーにより本院の状況、医療機能評価機構医療事故情報収集等事業の医療安全情報などを周知し注意喚起している。</p></li></ul>	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 ( 4 名 ) ・ 無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 ( 6 名 ) ・ 無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"><li>所属職員： 専任 ( 4 ) 名 兼任 ( 7 ) 名</li><li>活動の主な内容：</li></ul>	

- 医療安全管理の方針を定め、各部門への周知徹底を図るため、医療安全協議会等の会議を定期的に行い、医療安全管理の推進を図る。
- 医療安全管理に関する講演会や講習会を開催し、病院全体に共通するテーマの職員研修を定期的に行うことにより、医療スタッフの安全に関する意識の高揚を図る。
- 医療安全管理部に送信されたインシデントレポートについて、定期的にはリスクマネージャー等によるレポート検討会を開催し、事故防止対策の検討を行う。また検討会の分析結果は安対マンスリーに掲載し職員全員に周知する。
- 様々な課題について、医療安全管理部内にテーマに沿った部会やワーキンググループを設置し、専門的な立場から問題解決を図る。
- 院内を定期的にパトロールし、医療安全に関する規程や安全マニュアルが順守されているか点検し、必要に応じて指導や安全マニュアル等の見直しを行う。

⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

有・無

(様式第 6)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 指針の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>○ 感染症の分類等</li><li>○ 組織及び体制</li><li>○ 感染対策に関する教育・研修</li><li>○ 感染発生の報告</li><li>○ 感染発生時の対応</li><li>○ 感染の調査とその対策</li><li>○ 指針の閲覧</li></ul></li></ul>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 1 2 回
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 活動の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>○ 院内の感染に関する予防と処置に関すること</li><li>○ 院内感染防止対策のための指針の策定及び改正</li><li>○ 院内感染原因菌のスクリーニング及び報告</li><li>○ 院内感染が発生した場合、原因を分析し、対策を講じ周知徹底を図る</li><li>○ 院内感染対策実施後、検証し見直しを行う</li></ul></li></ul>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 2 0 回
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>○ 病院職員を対象とした講演会等の実施(5回)</li><li>○ 部署別事例研修の開催(1回)</li><li>○ 新規採用職員に対する手指消毒や感染防御の基本的な研修(12回)</li><li>○ 講演会及びCDCガイドラインに準拠した感染予防策等のDVD研修(2回)</li></ul></li></ul>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無)</li><li>・ その他の改善のための方策の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>○ 病棟・外来で感染症を診断した時には必要な感染対策を実施するとともに、一類～五類感染症のすべて及び院内感染を引き起こす可能性のある感染症については報告を行う。また、届出が必要な感染症の場合は、大阪市保健所(大阪府知事・大阪市長)及び医療安全協議会長宛届出用紙を提出する。</li><li>○ 専任感染管理者は必要な部門(病院長、医療安全協議会など)へ報告する。</li><li>○ 医療安全協議会にICTを置き、ICTでは次の任務を行う。</li><li>○ 感染情報の解析と管理</li><li>○ 院内感染症のサーベイランス</li><li>○ 耐性菌等の「院内感染サーベイランス報告書」集計</li><li>○ アウトブレイク時の調査・分析・対策・報告</li><li>○ 抗菌薬・消毒薬の適正使用に関する指導</li><li>○ 診療現場の現状把握と感染防止に関する指導</li><li>○ 従業者への感染防止対策に関する教育と啓発</li><li>○ 感染対策マニュアル及び感染対策ガイドラインの作成・改訂</li><li>○ 職業感染防止対策の実施</li><li>○ ファシリティーマネジメント(施設管理)への関与</li></ul></li></ul>	

(様式第6)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年15回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>①新規採用者研修（医師、看護師、医療技術職員など対象：H25年度 11回実施 11月対象者なし） 医薬品安全使用ならびに安全管理のための基本的な注意点に関する研修会を開催</p> <p>②静脈注射研修（看護師対象 H25年度 1回実施）</p> <p>③麻薬の安全管理研修（全教職員対象 H25年度 1回実施）</p> <p>④医薬品の適正使用（全教職員対象 H25年度 1回実施）</p> <p>⑤臨床研修医、卒後研修（H25年度 年1回実施）</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 （有・無）</p> <p>・ 業務の主な内容：</p> <p>①内用・外用薬処方の方法、取扱い</p> <p>②注射薬の取扱い</p> <p>③医薬品管理（麻薬・覚せい剤原料、第1種・第2種向精神薬、筋弛緩薬注射剤、特定生物由来製品、特定抗菌薬、定数配置しているハイリスク薬など）</p> <p>④安全性情報（院内副作用報告体制、緊急安全性情報の連絡体制）</p> <p>⑤薬品採用・購入（薬事委員会規程）</p> <p>⑥服薬指導・与薬</p> <p>定期的に病棟、診療科を巡回し、実施状況の確認を行なっている。 (病棟：月1回、診療科：年4回実施)</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 （有・無）</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>医薬品の安全性に関わる情報については、文書配布、電子カルテに掲載、各診療科の薬事委員にメール配信している。該当薬品の処方医を抽出し、診療科ごとに処方医師一覧表を作成し配布し、内容を確認後サインして薬剤部に返却することとしている。</p> <p>その他</p> <p>①添付文書、学会の提言などをもとにデータベースを作成し、定期的な検査が実施出来ない場合、腎機能、肝機能の検査結果をチェックし、投与量の確認ができるようにした。</p> <p>②内服ビスホスホネート製剤について、適応症や含有量により投与間隔の異なる薬剤があるため、オーダマスタ名称に投与間隔を追加し処方時に確認ができるようにした。</p> <p>※薬剤師が専任安全管理者として医療安全管理部に配置されており、医薬品に関わるインシデント報告の中で特に重要性の高い内容を薬剤部と専任安全管理者で協議し、研修会を企画・開催している。また、医療安全協議会において疑義照会事例の報告を行い、注意喚起を行うとともに、事故防止のための対策を検討している。</p>	

(様式第6)

### 医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	有 無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年176回
・ 研修の主な内容： 人工呼吸器・除細動装置・酸素療法器具について、安全使用のための合同研修会を開催した。 また、人工心肺装置・補助循環装置・血液浄化装置・生体情報モニター・輸液ポンプ・経腸栄養ポンプ等の医療機器について、部署別研修会を実施した。	
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 計画の策定 (有 無) ・ 保守点検の主な内容： 人工心肺装置・補助循環装置・人工呼吸器・血液浄化装置・除細動装置・閉鎖式保育器・診療用高エネルギー放射線発生装置・診療用放射線照射装置・手動式人工蘇生器・その他(10品目以上)の医療機器・医療器具について保守点検計画を策定し、保守点検マニュアルに基づいた保守点検を実施した。	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集、その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有 無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 1. 厚生労働省やPMDA等から配信される医療機器不具合情報を随時収集し、院内に周知すべき内容については、医療機器安全性情報及び院内Web等での情報配信を行った。 2. 製造メーカー等から提供される回収(改修)情報に対して、臨床工学部で一括した情報収集を行い、これらの情報を関連部署に提供した。 3. MEセンターで中央管理されている汎用性の高い医療機器については、更新計画を策定し、医療機器委員会を通じて計画的な更新と機種統一化を進めた。 4. MEセンターで中央管理している医療機器の添付文書の内容については、院内情報Webから閲覧できるようにしている。また、各部署で新規に購入された様々な医療機器の添付文書についても、MEセンターで一括保管して各部署に情報提供できるようにしている。 5. 医療機器安全管理手順書を各部署に配布し、毎年、見直し改訂を行っている。	

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有 無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 公益財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価Ver. 6.0を認定を受けている。 (2012年5月28日～2017年5月27日)	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有 無
・情報発信の方法、内容等の概要 ホームページを活用して、随時情報発信することに加えて、市民・患者様向けには 情報誌「そよ風」を発行・提供している。(年3回) 地域医療機関・関係医療機関には「大阪市立大学医学部附属病院概要」を発行・提供している。 (年1回)	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有 無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 緩和ケアチーム、褥瘡委員会、患者様への栄養サポートチーム (NST) 等を組織し 複数の診療科で連携して、患者様への診断等に対応できる体制を確保している。	